HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第８章　アイヌ文化の知識と体験
Author(s)	上山, 浩次郎
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 35, 177-212
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61415
Type	departmental bulletin paper
File Information	800_ch8.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第８章　アイヌ文化の知識と体験

上山浩次郎　北海道大学大学院教育学研究院助教

はじめに

本章では、アイヌ多住地域の和人住民が、アイヌ文化に関して、どのような知識をもち、どのような体験をしてきたのかを明らかにする。その際には、アイヌ文化の今後についてどのような考えを持っているのかという点にも検討を加える。

このような和人住民のアイヌ文化の関わりという論点については、上山（2013, 2015a）でもふれたようにこれまで十分な検討が加えられているとはいいがたい。ただ、1997（平成９）年に、「アイヌ文化振興法」（アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律）が制定されてから 20 年近くが経過した現在において、和人住民がどのようにアイヌ文化と関わりを持っているのかを検討することは、その政策の意味を検討する上で重要な意味を持とう。また、こうした和人住民のアイヌ文化への関わりは、アイヌの人々との交流の入り口となる可能性がある（小内編 2015：49, 115）。その意味で、和人住民のアイヌ文化の知識と体験のあり方は、今後の和人とアイヌの人々との関係を占う上でも着目していくべき現実であろう。

以下、本章では、こうした和人住民におけるアイヌ文化の知識と経験について、新ひだか町、伊達市、白糠町、札幌市、むかわ町の５つの地域を対象にして、その地域的な特徴や、アイヌ文化が持つ多様性に留意しながら検討を加える。なお、和人住民のアイヌ文化の知識と体験のあり方に焦点をあてるため、分析は和人住民（除：アイヌ配偶者である和人）に限定して行う。

第１節　アイヌ文化の知識と体験の特徴

第１項　地域、性別、世代、学歴

アイヌ文化といっても多様である。たとえば、カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事から、ウポポやムックリなどの歌や踊り・楽器まで幅広く存在している。本章で用いる調査では、以下の表８－０に示したように 14（「その他」除く）のアイヌ文化の知識と体験の有無について尋ねた[1)]。そこで、これらを「宗教儀礼」と「生活文化」という２つのタイプにわけて検討をしてみよう[2)]。具体的には、調査項目のいずれか１つに回答している者を上記のタイプに割り当てた。

表８－０　アイヌ文化の調査項目とタイプ

調査項目	タイプ
カムイノミなどの祭事	宗教儀礼
伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	
伝統的な葬儀・先祖供養	
イナウを捧げる	
神聖な場所への祈り	
海・川・山でのタブーや約束事	
まじない・トゥス（巫術）	
夢見を大事にする	
アイヌ語	生活文化
ユカラなど口承文芸	
歌と踊り・楽器	
工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	
伝統的狩猟・農法・漁法	
伝統的な料理	

表８－１　アイヌ文化の知識と体験

	アイヌ文化知識		宗教儀礼知識		生活文化知識	
	割合	回答者計	割合	回答者計	割合	回答者計
新ひだか町	51.2%	463	31.1%	463	41.5%	463
伊達市	44.7%	532	19.4%	532	39.1%	532
白糠町	49.4%	387	23.8%	387	44.7%	387
札幌市	58.7%	550	21.1%	550	55.5%	550
むかわ町	55.8%	471	32.7%	471	46.5%	471
合計	52.1%	2403	25.3%	2403	45.7%	2403
新ひだか町	－0.438		3.170		－2.011	
伊達市	－3.854		－3.595		－3.439	
白糠町	－1.181		－0.776		－0.409	
札幌市	3.542		－2.611		5.256	
むかわ町	1.811		4.092		0.411	
	p=0.000		p=0.000		p=0.000	

	アイヌ文化体験		宗教儀礼体験		生活文化体験	
	割合	回答者計	割合	回答者計	割合	回答者計
新ひだか町	16.7%	419	10.5%	419	11.2%	419
伊達市	15.5%	483	5.0%	483	13.0%	483
白糠町	17.9%	357	6.4%	357	14.3%	357
札幌市	19.6%	510	2.0%	510	19.2%	510
むかわ町	19.3%	461	9.1%	461	14.8%	461
合計	17.8%	2230	6.4%	2230	14.7%	2230
新ひだか町	－0.677		3.791		－2.213	
伊達市	－1.504		－1.463		－1.137	
白糠町	0.043		0.025		－0.22	
札幌市	1.182		－4.673		3.309	
むかわ町	0.918		2.655		0.059	
	p=0.421		p=0.000		p=0.004	

表８－１を見よう。まず、全体の動向を見ると、そこでは、上山（2015b）でもふれたようにおおよそ５割程度の者がアイヌ文化の知識があると回答している。アイヌ文化のタイプ別に見ると、「宗教儀礼」が 25.3%、「生活文化」が 45.7%となっており、「生活文化」に関する知識の方が多く得られている。

地域別の特徴を確認すると、まず札幌市が58.7％と最も高く回答されている。それに続くのが、むかわ町の55.8％であり、新ひだか町で51.2％、白糠町で49.4％、そして最も低いのは伊達市の44.7％となっている（p=0.000）。

ただし、アイヌ文化のタイプ別に見ると、異なる様相が見られる。たしかに「生活文化」を見ると、札幌市で55.5％、むかわ町で46.5％と高い回答が見られる一方、伊達市では39.1％と最も低くなっており（p=0.000）、その意味で全体的な動向と同様の特徴を持っている。しかし、「宗教儀礼」を見ると、全体で最も高かった札幌は21.1％と伊達市に次いで２番目に低くなり、代わりに、新ひだか町で31.1％、むかわ町で32.7％となっている（p=0.000）。このように見れば、新ひだか町やむかわ町では「宗教儀礼」的な文化に触れているという特徴、札幌市では「生活文化」的な文化に多く触れていることを背景に最もアイヌ文化の知識があるという特徴、さらに伊達市はアイヌ文化の知識が少ないという特徴、白糠町の場合は５地域のなかで「平均」的な特徴を持つと整理できよう。

こうしたアイヌ文化の知識に関する地域的な特徴は、アイヌ文化を実際に体験したかどうかに関しても同様にあてはまる。引き続き表８－１を確認しよう。そこからは、全体的な動向を見ると、札幌市が最も高く回答され、伊達市が最も低く回答されていること、「宗教儀礼」を見ると、新ひだか町とむかわ町で経験者が多いこと、白糠ではおおよそ「平均」的な特徴が見られることがわかる。

こうしたアイヌ文化の知識と体験における地域間の違いの背景には、まず、そのアイヌ文化に関する地域的特色が存在していよう。はじめに、新ひだか町では、1947（昭和22）年からシャクシャイン法要祭が行われており、カムイノミなどに触れる機会がある。また、新ひだかで生まれ育った和人住民のインタビュー結果を見ると、

【新ひだか町、男性、壮年層】

「（あなたは子どものころ、周囲に以下のようなアイヌの伝統文化をする人はいましたか）いたことはいました。入れ墨している人もいたし、チセはなかった。イナウはあったかな。〈中略〉（今でもそういう文化はありますか）イナウはありますよ。けっこう。ここの自治会50戸くらいありますからね。そのうちアイヌ民族の人が10軒くらいありますので。〈中略〉熊獲れたとか鹿獲れたとか、そうするとお呼ばれして、そういう行事には、行ったことがありますから。」

という記述も見られる。また、むかわ町のアンケート調査の「問７あなたは普段、アイヌの人たちと交流がありますか」という設問の自由回答には、「地域のアイヌカムイノミ（年間５回程度）」という記述が見られた。このように、現在においてカムイノミ等がなされている点や、調査協力者が子どもの頃にそうした宗教儀礼的な実践がなされていた点を背景にして、新ひだか町とむかわ町では「宗教儀礼」の知識と体験が多く見られると思われる。

白糠町でも、「ふるさと祭り」や「ししゃも祭り」でカムイノミが行われており[3)]、その点を背景として、新ひだか町やむかわ町ほどではないものの伊達市や札幌市よりも「宗教儀礼」が高くなっていよう。また、上山（2015a）でふれたように、「味技（あじわざ）フェス白糠」でアイヌ料理に、ポコロモシリチセでの「コンサート」で踊りや歌などに触れる機会があることから、「生活文化」に関する知識と体験も地域間比較の視点から見て「平均」的な程度見られると考えられる。

他方で、伊達市の場合、同化が早く進んだ地域であると解釈できる点やアイヌの人々の居住地が

有珠地区にほぼ限定されていた点から見て、調査協力者が子どもの頃にアイヌ文化に触れる機会はそれほどなかったと思われる。また、現在においても、

【伊達市、女性、老年層】
「伊達市は伊達政宗については一生懸命やっているけれど、アイヌに対する取り組みについては聞いたことがない。」

というような評価が多くなされている。それゆえに、アイヌ文化の知識と体験が多くは見られないと解釈できよう。

その点、札幌市は、たしかにもともとアイヌの人たちがわずかにしか住んでいなかったものの、現在では、札幌市アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）などの施設や、「札幌市アイヌ施策推進計画」のもとで伝統楽器の演奏や古式舞踊の披露などの「アイヌ文化交流センターイベント」、アイヌ語・手芸・工芸・料理等の「アイヌ文化体験講座の実施」などがなされている（札幌市 2010：10－11）。その意味でアイヌ文化に触れる機会が存在している。そうした点が、札幌市におけるアイヌ文化の知識と体験の多さをもたらしていよう。

ただし、こうしたアイヌ文化に関連する地域的特色だけではない側面も、アイヌ文化の知識と体験のあり方の背景に存在していると思われる。具体的には、地域の学歴構成の違いである。なぜなら、高学歴の者ほどアイヌ民族やアイヌ文化の問題に関心をよせる可能性があり、また、一般的にいって、学歴が高いほどアイヌ民族や文化の問題に限らず様々な社会問題的な事柄に関心を持つ蓋然性が高まると考えられるからである。

そこで、まずは表８－２を見よう。そこには学歴別[4)]にアイヌ文化の知識を示した。それによれば、「宗教儀礼」では学歴で違いが見られないものの（p=0.303）、「生活文化」では「中学」26.4％、「高校」44.3％、「大学など」54.8％と高学歴の者ほど回答しており（p=0.000）、その結果アイヌ文化全体の知識は、「中学」37.0％、「高校」51.3％、「大学など」59.1％となり（p=0.000）、高学歴ほどアイヌ文化の知識を持っていることがわかる。また、表８－３から、学歴別にアイヌ文化の体験を見ると、ここでも学歴による違いは、「宗教儀礼」では見られないものの、「生活文化」では確認でき、その結果として、アイヌ文化全体の体験も学歴が高いほど多く見られる。

この点をふまえて、表８－４から地域別の学歴を見よう。そこからは、札幌市において「大学など」が58.6％ととりわけ高くなっていることがわかる。この点をふまえれば、札幌市におけるアイヌ文化の知識と体験の多さは、札幌市において高学歴の者が多いという点も背景としていよう。

続けて、他の地域の学歴を見ると、新ひだか町・白糠町・むかわ町において、「中学」がそれぞれ21.6％、23.0％、19.5％となっており、その意味で高学歴の者は多くはない。対して、伊達市の場合、「大学など」が37.7％と札幌市に次いで２番目に高くなっている。先に見たように伊達市ではアイヌ文化の知識と体験が最も低かった。その意味で、これらの地域のあり方は、高学歴の者ほどアイヌ文化の知識と体験があるという解釈によっては十分に説明できない。この点は、先に確認した地域的特色によるアイヌ文化の知識と体験の相違をもたらすメカニズムが、学歴によるメカニズムを上回っていることを示唆し、その意味でアイヌ文化の地域的特色が持つ和人住民のアイヌ文化の知識と体験のあり方への影響力の大きさを物語っていよう。

このように見れば、アイヌ文化の知識と体験の地域間相違は、地域間の学歴構成の違いを背景としつつ、主にその地域的な特色の相違によってもたらされていると解釈できる。

ただし、アイヌ文化の知識と体験に関しては、とりわけアイヌ文化を体験したことがある者がそれほどには見られない点を指摘した方がよいのかもしれない。再度、表８－１に戻り、全体の動向を見るとアイヌ文化を体験した者は17.8％だからである。アイヌ文化のタイプ別に見ると、「生活文化」は14.7％であるものの、「宗教儀礼」は6.4％であり１割に満たない。「宗教儀礼」に関して地域別に見ると、札幌では2.0％ととりわけ低くなっている。このように、アイヌ多住地域といっても、和人住民は、アイヌ文化に関する知識は半数程度の者が持っているものの、実際に体験している者は２割を下回っている。

続いて、再度、表８－２と表８－３に戻り、性別・世代別[5)]にアイヌ文化の知識と体験を確認しよう。まず、表８－２からアイヌ文化の知識を見ると、性別では、アイヌ文化知識全体に関しては違いが見られないものの、「宗教儀礼」に関しては男性で29.4％、女性で21.9％と男性ほどその値が高い（p=0.000）。その意味で、男性ほど「宗教儀礼」に関する知識を持っている。

表８－２　アイヌ文化の知識（性別・世代別・学歴別）

	合計			
	アイヌ文化知識	宗教儀礼知識	生活文化知識	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	52.5%	29.4%	44.1%	1103
女性	51.9%	21.9%	47.1%	1290
合計	52.2%	25.3%	45.7%	2393
男性	0.309	4.213	－1.503	
女性	－0.309	－4.2131	1.503	
p=0.757	p=0.000	p=0.133		

	新ひだか町			
	アイヌ文化知識	宗教儀礼知識	生活文化知識	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	51.8%	33.8%	40.5%	222
女性	50.4%	28.3%	42.1%	240
合計	51.1%	31.0%	41.3%	462
男性	0.298	1.266	－0.336	
女性	－0.298	－1.2660	0.336	
p=0.766p	p=0.205	p=0.737		

	伊達市			
	アイヌ文化知識	宗教儀礼知識	生活文化知識	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	47.2%	24.0%	40.4%	250
女性	42.7%	15.3%	38.1%	281
合計	44.8%	19.4%	39.2%	531
男性	1.040	2.530	0.547	
女性	－1.040	－2.530	－0.547	
p=0.298	p=0.011p	p=0.584		

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	52.1%	16.7%	50.0%	424
壮年層	53.8%	24.2%	49.5%	893
老年層	50.7%	29.6%	40.8%	1068
合計	52.1%	25.3%	45.7%	2385
青年層	0.002	－4.461	1.959	
壮年層	1.236	－0.952	2.877	
老年層	－1.205	4.356	－4.307	
p=0.415	p=0.000	p=0.000		

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	41.0%	18.1%	38.6%	83
壮年層	47.8%	26.4%	42.7%	178
老年層	57.6%	39.9%	40.4%	198
合計	50.8%	30.7%	41.0%	459
青年層	－1.973	－2.759	－0.492	
壮年層	－1.027	－1.595	0.603	
老年層	2.543	3.713	－0.21	
p=0.023	p=0.000	p=0.800		

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	42.2%	12.0%	39.8%	83
壮年層	45.9%	20.1%	41.8%	194
老年層	44.7%	21.3%	36.8%	253
合計	44.7%	19.4%	39.1%	530
青年層	－0.508	－1.852	0.143	
壮年層	0.408	0.296	0.967	
老年層	－0.023	1.062	－1.036	
p=0.851	p=0.171	p=0.557		

	割合	割合	割合	回答者計
中学	37.0%	22.3%	26.4%	349
高校	51.3%	25.7%	44.3%	1060
大学など	59.1%	26.5%	54.8%	953
合計	52.3%	25.5%	45.9%	2362
中学	－6.226	－1.476	－7.932	
高校	－0.885	0.132	－1.367	
大学など	5.4000	0.934	7.124	
p=0.000	p=0.303	p=0.000		

	割合	割合	割合	回答者計
中学	36.6%	30.1%	23.7%	93
高校	52.5%	31.3%	41.9%	217
大学など	58.3%	31.8%	51.7%	151
合計	51.2%	31.2%	41.4%	461
中学	－3.16	－0.263	－3.895	
高校	0.543	0.044	0.207	
大学など	2.124	0.178	3.1100	
p=0.004	p=0.962	p=0.000		

	割合	割合	割合	回答者計
中学	33.3%	12.7%	7.0%	63
高校	39.9%	17.3%	32.7%	248
大学など	53.6%	23.7%	49.8%	211
合計	44.6%	19.3%	38.9%	522
中学	－1.925	－1.425	－2.067	
高校	－2.062	－1.106	－2.777	
大学など	3.376	2.071	4.198	
p=0.002	p=0.083	p=0.000		

	白糠町			
	アイヌ文化知識	宗教儀礼知識	生活文化知識	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	53.1%	28.5%	46.4%	179
女性	46.3%	19.5%	43.4%	205
合計	49.5%	23.7%	44.8%	384
男性	1.316	2.064	0.581	
女性	－1.316	－2.064	－0.581	

p=0.188　p=0.039　p=0.561

	札幌市			
	アイヌ文化知識	宗教儀礼知識	生活文化知識	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	59.2%	28.0%	52.1%	211
女性	58.6%	16.9%	57.7%	338
合計	58.8%	21.1%	55.6%	549
男性	0.153	3.099	－1.275	
女性	－0.153	－3.099	1.275	

p=0.878　p=0.002　p=0.202

	むかわ町			
	アイヌ文化知識	宗教儀礼知識	生活文化知識	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	52.3%	32.8%	42.3%	241
女性	59.7%	32.7%	51.3%	226
合計	55.9%	32.8%	46.7%	467
男性	－1.621	0.008	－1.949	
女性	1.621	－0.008	1.949	

p=0.105　p=0.993　p=0.051

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	62.0%	14.0%	58.0%	50
壮年層	52.0%	24.4%	50.4%	127
老年層	44.7%	25.7%	37.9%	206
合計	49.3%	23.8%	44.6%	383
青年層	1.919	－1.739	2.037	
壮年層	0.723	0.21	1.593	
老年層	－1.979	0.976	－2.881	

p=0.068　p=0.212　p=0.01

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	60.2%	17.3%	57.9%	133
壮年層	60.4%	16.4%	59.1%	225
老年層	55.8%	28.9%	50.0%	190
合計	58.8%	21.0%	55.7%	548
青年層	0.375	－1.202	0.597	
壮年層	0.669	－2.179	1.358	
老年層	－1.029	3.335	－1.942	

p=0.588　p=0.004　p=0.148

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	54.7%	21.3%	54.7%	75
壮年層	61.5%	36.7%	52.1%	169
老年層	52.9%	33.9%	40.7%	221
合計	56.3%	32.9%	47.1%	465
青年層	－0.32	－2.329	1.434	
壮年層	1.707	1.312	1.624	
老年層	－1.408	0.451	－2.62	

p=0.225　p=0.056　p=0.03

	割合	割合	割合	回答者計
中学	33.8%	21.3%	22.5%	80
高校	51.8%	23.3%	48.2%	193
大学など	61.8%	28.4%	60.8%	102
合計	50.7%	24.3%	46.1%	375
中学	－3.412	－0.71	－4.781	
高校	0.457	－0.442	0.821	
大学など	2.628	1.15	3.479	

p=0.001　p=0.483　p=0.000

	割合	割合	割合	回答者計
中学	39.5%	13.2%	34.2%	38
高校	58.2%	23.9%	54.9%	184
大学など	61.4%	20.7%	58.3%	324
合計	58.8%	21.2%	55.5%	546
中学	－2.508	－1.264	－2.737	
高校	－0.216	1.086	－0.202	
大学など	1.507	－0.391	1.612	

p=0.033　p=0.312　p=0.018

	割合	割合	割合	回答者計
中学	42.7%	26.7%	29.3%	75
高校	56.9%	33.0%	47.7%	218
大学など	60.6%	35.8%	53.3%	165
合計	55.9%	33.0%	46.7%	458
中学	－2.523	－1.27	－3.301	
高校	0.405	0.025	0.401	
大学など	1.524	0.952	2.127	

p=0.032　p=0.381　p=0.002

表８－３　アイヌ文化の体験（性別・世代別・学歴別）

	合計			
	アイヌ文化体験	宗教儀礼体験	生活文化体験	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	18.4%	9.0%	13.3%	1012
女性	17.5%	4.3%	15.9%	1209
合計	17.9%	6.4%	14.7%	2221
男性	0.517	4.486	－1.683	
女性	－0.517	－4.486	1.683	

p=0.605　p=0.000　p=0.092

	新ひだか町			
	アイヌ文化体験	宗教儀礼体験	生活文化体験	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	18.8%	13.9%	10.9%	202
女性	14.8%	7.4%	11.6%	216
合計	16.7%	10.5%	11.2%	418
男性	1.094	2.149	－0.221	
女性	－1.094	－2.149	0.221	

p=0.274　p=0.032　p=0.825

	伊達市			
	アイヌ文化体験	宗教儀礼体験	生活文化体験	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	17.0%	7.2%	13.0%	223
女性	14.3%	3.1%	13.1%	259
合計	15.6%	5.0%	13.1%	482
男性	0.832	2.056	－0.04	
女性	－0.832	－2.056	0.04	

p=0.405　p=0.04　p=0.968

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	22.3%	2.2%	21.6%	417
壮年層	16.4%	5.4%	14.2%	852
老年層	17.3%	9.2%	12.1%	947
合計	17.9%	6.4%	14.7%	2216
青年層	2.593	－3.933	4.397	
壮年層	－1.439	－1.533	－0.535	
老年層	－0.633	4.615	－2.948	

p=0.031　p=0.000　p=0.000

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	6.3%	0.0%	6.3%	79
壮年層	14.9%	7.7%	12.5%	168
老年層	23.7%	18.3%	12.4%	169
合計	16.8%	10.6%	11.3%	416
青年層	－2.771	－3.396	－1.55	
壮年層	－0.873	－1.55	0.637	
老年層	3.085	4.26	0.601	

p=0.002　p=0.000　p=0.301

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	25.6%	2.4%	24.4%	82
壮年層	11.1%	2.8%	10.6%	180
老年層	15.5%	7.7%	10.9%	220
合計	15.6%	5.0%	13.1%	482
青年層	2.756	－1.161	3.338	
壮年層	－2.08	－1.715	－1.265	
老年層	－0.059	2.542	－1.29	

p=0.011　p=0.039　p=0.004

	割合	割合	割合	回答者計
中学	16.8%	7.8%	13.1%	321
高校	15.5%	6.0%	12.2%	983
大学など	21.1%	6.5%	18.3%	890
合計	18.0%	6.5%	14.8%	2194
中学	−0.574	1.037	−0.944	
高校	−2.743	−0.806	−3.095	
大学など	3.191	0.07	3.814	

p=0.005 p=0.527 p=0.001

	割合	割合	割合	回答者計
中学	19.0%	13.1%	13.1%	84
高校	17.2%	10.4%	11.5%	192
大学など	14.9%	9.2%	9.9%	141
合計	16.8%	10.6%	11.3%	417
中学	0.62	0.849	0.592	
高校	0.202	−0.083	0.112	
大学など	−0.739	−0.633	−0.619	

p=0.708 p=0.656 p=0.763

	割合	割合	割合	回答者計
中学	17.0%	5.7%	13.2%	53
高校	10.3%	2.6%	8.2%	232
大学など	21.6%	7.9%	18.9%	190
合計	15.6%	5.1%	13.1%	475
中学	0.299	0.214	0.036	
高校	−3.074	−2.398	−3.074	
大学など	2.944	2.309	3.114	

p=0.006 p=0.045 p=0.005

	白糠町			
	アイヌ文化体験	宗教儀礼体験	生活文化体験	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	18.6%	10.6%	11.8%	161
女性	17.6%	3.1%	16.6%	193
合計	18.1%	6.5%	14.4%	354
男性	0.248	2.832	−1.275	
女性	−0.248	−2.832	1.275	

p=0.804 p=0.005 p=0.202

	札幌市			
	アイヌ文化体験	宗教儀礼体験	生活文化体験	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	18.2%	2.5%	17.2%	198
女性	20.6%	1.6%	20.6%	311
合計	19.6%	2.0%	19.3%	509
男性	−0.664	0.727	−0.95	
女性	0.664	−0.727	0.95	

p=0.507 p=0.467 p=0.342

	むかわ町			
	アイヌ文化体験	宗教儀礼体験	生活文化体験	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	19.3%	11.0%	13.6%	228
女性	19.6%	7.4%	16.1%	230
合計	19.4%	9.2%	14.8%	458
男性	−0.072	1.325	−0.749	
女性	0.072	−1.325	0.749	

p=0.942 p=0.185 p=0.454

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	37.3%	3.9%	35.3%	51
壮年層	15.6%	7.4%	11.5%	122
老年層	14.4%	6.6%	10.5%	181
合計	18.1%	6.5%	14.4%	354
青年層	3.846	−0.807	4.591	
壮年層	−0.888	0.487	−1.139	
老年層	−1.857	0.104	−2.143	

p=0.001 p=0.699 p=0.000

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	28.5%	2.3%	28.5%	130
壮年層	20.5%	1.4%	19.5%	215
老年層	11.6%	2.4%	11.6%	164
合計	19.6%	2.0%	19.3%	509
青年層	2.932	0.327	3.086	
壮年層	0.398	−0.791	0.138	
老年層	−3.156	0.532	−3.025	

p=0.001 p=0.729 p=0.001

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	14.7%	2.7%	13.3%	75
壮年層	19.2%	9.6%	15.0%	167
老年層	21.1%	10.8%	15.0%	213
合計	19.3%	9.0%	14.7%	455
青年層	−1.121	−2.1	−0.372	
壮年層	−0.074	0.323	0.112	
老年層	0.905	1.249	0.168	

p=0.475 p=0.101 p=0.933

	割合	割合	割合	回答者計
中学	11.3%	4.2%	7.0%	71
高校	13.8%	6.1%	11.0%	181
大学など	31.2%	9.7%	26.9%	93
合計	18.0%	6.7%	14.5%	345
中学	−1.651	−0.925	−2.001	
高校	−2.114	−0.461	−1.908	
大学など	3.883	1.362	3.971	

p=0.000 p=0.344 p=0.000

	割合	割合	割合	回答者計
中学	11.8%	0.0%	11.8%	34
高校	18.8%	2.4%	17.6%	170
大学など	21.1%	2.0%	21.1%	304
合計	19.7%	2.0%	19.3%	508
中学	−1.202	−0.855	−1.151	
高校	−0.346	0.442	−0.666	
大学など	0.946	0.01	1.228	

p=0.409 p=0.666 p=0.343

	割合	割合	割合	回答者計
中学	21.5%	10.1%	19.0%	79
高校	18.3%	8.7%	13.9%	208
大学など	20.4%	9.3%	14.8%	162
合計	19.6%	9.1%	15.1%	449
中学	0.474	0.338	1.05	
高校	−0.659	−0.326	−0.66	
大学など	0.309	0.071	−0.147	

p=0.787 p=0.926 p=0.561

表８－４　地域別学歴

	中学	高校	大学など	合計
新ひだか町	21.6%	47.1%	31.3%	499
伊達市	14.6%	47.7%	37.7%	576
白糠町	23.0%	50.7%	26.2%	408
札幌市	7.3%	34.1%	58.6%	572
むかわ町	19.5%	46.5%	34.0%	512
合計	16.7%	44.8%	38.5%	2567
新ひだか町	3.319	1.148	−3.715	
伊達市	−1.528	1.613	−0.478	
白糠町	3.762	2.629	−5.568	
札幌市	−6.791	−5.842	11.171	
むかわ町	1.939	0.857	−2.361	

p=0.000

次に、世代によるアイヌ文化知識の違いを見ると、アイヌ文化のタイプによって異なる傾向が見られる。すなわち、「宗教儀礼」に関して、「青年層」16.7%、「壮年層」24.2%、「老年層」29.6%と年齢が高いほどその知識を得ている一方（p = 0.000）、「生活文化」に関しては、「青年層」50.0%、「壮年層」49.5%、「老年層」40.8%となっており（p = 0.000）、世代が若いほどその知識を得ている。そうした結果、全体としてのアイヌ文化の知識は世代によって違いが見られない。

このような性別・世代の傾向は、表８－３からわかるようにアイヌ文化の体験に関しても確認できる。すなわち、男性ほど「宗教儀礼」を体験し、「老年層」ほど「宗教儀礼」を「青年層」ほど「生活文化」を、高学歴の者ほど「生活文化」に関するアイヌ文化を体験している。

こうした性別・世代、さらに先に確認した学歴によるアイヌ文化の知識と体験の相違は、地域ごとに見ても、基本的には確認することができる。再度、表８－２から地域別に性別・世代別・学歴別の動向を見てみよう。そこからは、地域によっては有意な違いが見られなくなる場合もあるものの、割合から得られる傾向から見れば、地域ごとに見てもおおよそ全体で見た傾向を確認することができる。

ただし、注目すべき違いも見られる。まず、表８－２から新ひだか町と伊達市を見ると、「生活文化」の知識に関する世代差が見られない。すなわち、全体では若い世代ほど「生活文化」に関する知識を得ていたものの、新ひだか町と伊達市では世代によって違いが見られないのである。たとえば、新ひだか町を見ると、有意確率が p=0.800 で、「青年層」38.6%、「壮年層」42.7%、「老年層」40.4%となっており、割合から見ればむしろ青年層で値が最も低い。

また、表８－３から、新ひだか町とむかわ町を見ると、「生活文化」の体験に世代差が見られない。すなわち、全体で見られた若い世代ほど「生活文化」の体験をしているという傾向は、新ひだか町で「青年層」6.3%、「壮年層」12.5%、「老年層」12.4%（p=0.301）、むかわ町で「青年層」13.3%、「壮年層」15.0%、「老年層」15.0%（p=0.933）と確認することができないのである。

これらの点は、新ひだか町、伊達市、むかわ町の若い世代、とりわけ新ひだか町の若い世代において、アイヌ文化の「生活文化」における知識と体験が相対的に少ないこと、もしくは、逆に、白糠町と札幌市の若い世代においてアイヌ文化の「生活文化」に関する知識と体験が多いことを示唆しているかもしれない。

表８－５　アイヌ文化の知識と体験（「生活文化」）（「青年層」）

青年層	生活文化知識	
	割合	回答者計
新ひだか町	38.6%	83
伊達市	39.8%	83
白糠町	58.0%	50
札幌市	57.9%	133
むかわ町	54.7%	75
合計	50.0%	424
新ひだか町	－2.326	
伊達市	－2.081	
白糠町	1.205	
札幌市	2.198	
むかわ町	0.891	
	p=0.011	

青年層	生活文化体験	
	割合	回答者計
新ひだか町	6.3%	79
伊達市	24.4%	82
白糠町	35.3%	51
札幌市	28.5%	130
むかわ町	13.3%	75
合計	21.6%	417
新ひだか町	－3.660	
伊達市	0.689	
白糠町	2.541	
札幌市	2.298	
むかわ町	－1.918	
	p=0.000	

そこで、この点をより明確にするため、「青年層」を対象にして地域別に「生活文化」の知識と体験を整理した。表８－５を見よう。まず、「生活文化」の知識を見ると、有意確率がp=0.011であり、若い世代の「生活文化」の知識には地域の違いが見られることがわかる。具体的には、先にふれたように新ひだか町と伊達市で30％後半である一方、白糠町と札幌市ではそれぞれ58.0％、57.9％となっている。また、「生活文化」の体験に関しても有意確率がp=0.000で、若い世代において「生活文化」の体験には地域による違いが存在している。ここでは、白糠町が35.3％、札幌市が28.5％であるのに対し、先にふれたように新ひだか町は6.3％、むかわ町は13.3％にすぎない。

こうして、全体として見れば、若い世代ほど「生活文化」に関する知識や体験を得ているものの、それは地域によって違いがあり、白糠町や札幌市の若い世代では多くの知識や体験がある一方、新ひだか町、伊達市、むかわ町では、それほど知識や体験がなされていないという意味で、若い世代において地域による違いが見られる。

第２項　アイヌ文化の知識と体験の類型的把握

このように、和人住民のアイヌ文化の知識と体験には、地域的な特徴やアイヌ文化のタイプによる違いが見られる。次に、アイヌ文化の２つのタイプをもとに、知識と体験のそれぞれについて以下のようなアイヌ文化類型を作成してみよう。

「なし」　　：「宗教儀礼」も「生活文化」も知識や体験がない者
「宗教儀礼あり、生活文化なし」　　：「宗教儀礼」のみ知識や体験がある者
「宗教儀礼なし、生活文化あり」　　：「生活文化」のみ知識や体験がある者
「宗教儀礼あり、生活文化あり」　　：「宗教儀礼」も「生活文化」も知識や体験がある者

それを地域別に示したのが表８－６と表８－７である。表８－６によれば、アイヌ文化の知識に関して、「宗教儀礼あり、生活文化あり」という両方の文化の知識を持っている者は19.0％と２割程度にすぎない。「生活文化」の知識のみを持つ「宗教儀礼なし、生活文化あり」は26.6％ではあるものの、「宗教儀礼」の知識のみを持つ「宗教儀礼あり、生活文化なし」は6.3％にすぎない。

続けて、表８－７からアイヌ文化の体験の場合を見ると、「生活文化」の体験のみを持つ「宗教儀礼なし、生活文化あり」は11.4％ではあるものの、「宗教儀礼」の体験のみを持つ「宗教儀礼あり、生活文化なし」、両者を体験している「宗教儀礼あり、生活文化あり」はともに3.2％にすぎない。このように見れば、アイヌ文化に関して「宗教儀礼」「生活文化」ともに体験している者は、和人住民の中ではかなり少数であることがわかる。

こうしたアイヌ文化類型を地域別に確認すると、先に表８－１で確認した特徴を反映した内容となっている。すなわち、新ひだか町やむかわ町では、「宗教儀礼」の知識や経験が多く見られたことを反映し「宗教儀礼あり、生活文化なし」や「宗教儀礼あり、生活文化あり」が多く見られる。対して、札幌市では「宗教儀礼なし、生活文化あり」という「生活文化」に関する知識や体験のみを持つ者が多い。そして、伊達市は「なし」が相対的に多く見られ、白糠町は「平均的」な特徴を持つ。

表８－６　アイヌ文化の知識（文化類型）

		アイヌ文化知識				
		なし	宗教儀礼:あり、生活文化:なし	宗教儀礼:なし、生活文化:あり	宗教儀礼:あり、生活文化:あり	合計
度数	新ひだか町	48.8%	9.7%	20.1%	21.4%	463
	伊達市	55.6%	5.3%	25.0%	14.1%	532
	白糠町	50.4%	4.9%	25.8%	18.9%	387
	札幌市	41.3%	3.3%	37.6%	17.8%	550
	むかわ町	44.6%	8.9%	22.7%	23.8%	471
	合計	48.0%	6.3%	26.6%	19.0%	2403
割合	新ひだか町	0.378	3.339	－3.547	1.443	
	伊達市	3.985	－1.141	－0.966	－3.277	
	白糠町	1.016	－1.249	－0.386	－0.085	
	札幌市	－3.609	－3.349	6.648	－0.816	
	むかわ町	－1.665	2.577	－2.144	2.937	

p=0.000

表８－７　アイヌ文化の体験（文化類型）

		アイヌ文化体験				
		なし	宗教儀礼:あり、生活文化:なし	宗教儀礼:なし、生活文化:あり	宗教儀礼:あり、生活文化:あり	合計
度数	新ひだか町	83.3%	5.5%	6.2%	5.0%	419
	伊達市	84.5%	2.5%	10.6%	2.5%	483
	白糠町	82.4%	3.4%	11.2%	3.1%	357
	札幌市	80.2%	0.6%	17.8%	1.4%	510
	むかわ町	80.7%	4.6%	10.2%	4.6%	461
	合計	82.2%	3.2%	11.4%	3.2%	2230
割合	新ひだか町	0.677	2.983	－3.733	2.292	
	伊達市	1.504	－0.989	－0.683	－1.045	
	白糠町	0.108	0.208	－0.149	－0.172	
	札幌市	－1.314	－3.802	5.178	－2.7	
	むかわ町	－0.918	1.883	－0.939	1.809	

p=0.000

第２節　アイヌ文化の情報源

第１項　アイヌ文化の入手経路

次に、アイヌ文化をどこで、だれから知ったかというアイヌ文化の入手経路について検討してみよう。表８－８にはアイヌ文化の知識があると回答した者を対象にアイヌ文化類型別にアイヌ文化の入手経路を整理した。

まず、全体の動向を確認すると、「施設や展示物」52.0％、「情報メディア」42.5％という「公開」された経路が高く回答されており、それらが主要な情報源であることがわかる。続いて高いのは、「アイヌ文化を普及している団体」21.5％、「学校の授業や行事」18.8％であり、こうした「組織・制度」的な経路が２割程度回答されている。そして、「家族や親戚」「近所の人」「友人」という「インフォーマル」な経路は10.0％程度となっている。

ただし、アイヌ文化類型ごとに特徴的な入手経路が存在している点には注目した方がよい。たとえば、「宗教儀礼」のみの知識がある「宗教儀礼あり、生活文化なし」は「家族や親戚」「近所の人」

「友人」などの「インフォーマル」な経路を通してアイヌ文化に触れることが多い。また、「宗教儀礼あり、生活文化あり」もそれらの「インフォーマル」な経路を通じてアイヌ文化に触れている傾向が見られる。たとえば、「近所の人」を見ると「宗教儀礼あり、生活文化なし」13.8%、「宗教儀礼なし、生活文化あり」5.3%、「宗教儀礼あり、生活文化あり」13.3%となっている（p=0.000）。

他方で、「生活文化」のみ知識がある「宗教儀礼なし、生活文化あり」は、相対的に「学校の授業や行事」が21.9%とその他の類型と比べて高く回答されている。

そして、「宗教儀礼」と「生活文化」ともに知識のある「宗教儀礼あり、生活文化あり」は、「アイヌ文化を普及している団体」「情報メディア」「施設や展示物」「仕事」を介してアイヌ文化に触れているという特徴が見られる。たとえば、「アイヌ文化を普及している団体」を見ると、「宗教儀礼あり、生活文化なし」21.1%、「宗教儀礼なし、生活文化あり」15.2%、「宗教儀礼あり、生活文化あり」30.6%となっている（p=0.000）。

このように見れば、「家族や親戚」「近所の人」「友人」などの「インフォーマル」な経路は「宗教儀礼」に関する文化の主な情報源として、「学校の授業や行事」は「生活文化」に関する文化の主な情報源として、さらに「アイヌ文化を普及している団体」「情報メディア」「施設や展示物」は「宗教儀礼」「生活文化」両者の情報源として機能していると推測できよう。

表８－８　アイヌ文化の情報源（文化類型）

アイヌ文化知識	家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア	施設や展示物	仕事	催し	旅行観光	その他	回答者数
宗教儀礼あり、伝承文化なし	17.1%	13.8%	15.1%	5.9%	21.1%	31.6%	23.0%	1.3%	1.3%	0.0%	2.0%	152
宗教儀礼なし、伝承文化あり	7.7%	5.3%	7.2%	21.9%	15.2%	38.6%	53.9%	1.3%	0.9%	1.4%	1.9%	640
宗教儀礼あり、伝承文化あり	10.5%	13.3%	13.3%	18.8%	30.6%	51.6%	58.9%	3.7%	0.4%	0.9%	2.0%	457
合計	9.8%	9.3%	10.4%	18.8%	21.5%	42.5%	52.0%	2.2%	0.8%	1.0%	1.9%	1249
宗教儀礼あり、伝承文化なし	3.204	2.052	2.035	－4.34	－0.155	－2.91	－7.619	－0.765	0.76	－1.349	0.05	
宗教儀礼なし、伝承文化あり	－2.665	－4.961	－3.821	2.837	－5.624	－2.873	1.41	－2.271	0.556	1.304	－0.123	
宗教儀礼あり、伝承文化あり	0.591	3.756	2.584	0.002	5.941	4.956	3.708	2.876	－1.093	－0.438	0.094	
	p=0.003	p=0.000	p=0.001	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.019	p=0.478	p=0.132	p=0.992	

注）「仕事」「催し」「旅行観光」は、「その他」の回答をアフターコードした

表８－９　アイヌ文化の情報源（地域別）

アイヌ文化知識	家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア	施設や展示物	仕事	催し	旅行観光	その他	回答者数
新ひだか町	10.5%	14.3%	15.2%	12.7%	26.2%	36.3%	51.1%	1.3%	0.8%	0.4%	0.0%	237
伊達市	6.3%	3.8%	5.5%	16.8%	16.4%	46.2%	51.3%	2.9%	1.3%	1.7%	3.8%	238
白糠町	9.9%	7.3%	13.6%	20.9%	36.1%	37.7%	43.5%	3.1%	1.6%	0.0%	1.6%	191
札幌市	7.1%	3.4%	4.3%	27.6%	7.7%	51.4%	57.6%	1.5%	0.3%	2.2%	1.9%	323
むかわ町	16.0%	19.4%	16.3%	14.4%	28.1%	37.3%	53.2%	2.3%	0.4%	0.4%	2.3%	263
合計	9.9%	9.5%	10.5%	18.9%	21.5%	42.5%	52.1%	2.2%	0.8%	1.0%	1.9%	1252
新ひだか町	0.369	2.822	2.587	－2.737	1.946	－2.146	－0.350	－1.048	0.087	－1.040	－2.390	
伊達市	－2.067	－3.345	－2.836	－0.929	－2.128	1.292	－0.280	0.926	0.889	1.086	2.331	
白糠町	0.022	－1.113	1.500	0.771	5.351	－1.456	－2.591	1.018	1.302	－1.538	－0.379	
札幌市	－1.944	－4.339	－4.218	4.593	－6.983	3.757	2.301	－0.874	－1.146	2.323	－0.090	
むかわ町	3.705	6.151	3.450	－2.087	2.955	－1.930	0.422	0.157	－0.858	－1.185	0.485	
	p=0.002	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.042	p=0.550	p=0.457	p=0.062	p=0.002	

注）「仕事」「催し」「旅行観光」は、「その他」の回答をアフターコードした

続けて、アイヌ文化の入手経路を地域別に確認しよう。表８－９[6)]を見よう。上山（2015b）でもふれたように、はじめに確認しておくべきは、全体的な動向と同様、いずれの地域でも「施設や展示物」が情報源として最も高く回答されている点である。また、「情報メディア」が２番目に高く回答されているという点もいずれの地域でも確認できる。その意味で、これらの施設や展示物・情報メディアという「公開」された経路は、和人住民にとって各地域に共通して見られる主要なアイヌ文化の情報源であることがわかる。

ただ、「施設や展示物」の具体的な主な事例は、地域によってある程度の異なりが見られると思われる。たとえば、伊達市の和人住民のインタビュー結果を見ると、

【伊達市、男性、青年層】

「この辺の人たちは、小学校の時に見学旅行で登別のクマ牧場や白老のカムイコタンへ行くので、だいたいの人たちはアイヌ文化を見たことがあると思う。」

という記述があり、その他の伊達市の和人住民のインタビュー結果からも、伊達市に地理的に近い白老町の「白老ポロトコタン」などの記述が見られた。他方で、新ひだか町の和人住民のインタビュー結果からは、シャクシャイン像や真歌公園に関する記述がいくつか見られ、白糠町では、フンペリムセ発祥地記念碑やポコロモシリ・ウレシパチセに関する言及が見られる。このように見れば、「施設や展示物」が主要な情報源である点は５つの地域で共通しているものの、その具体的な施設や展示物は地域による特色があろう。

加えて、地域別の回答傾向にも相対的な特徴が見られる。たとえば、新ひだか町とむかわ町では、「家族や親戚」「近所の人」「友人」などの「インフォーマル」な経路を通じてアイヌ文化の情報を得ている者が多い。たとえば、「近所の人」を見ると、新ひだか町で 14.3％、むかわ町で 19.4％であるのに対し、他の３地域では 3.4 ～ 7.3％にすぎない（p=0.000）。こうした点は、先に確認した新ひだか町とむかわ町で「宗教儀礼」の知識や体験を持つ者が多い点、さらに「宗教儀礼」は主に「インフォーマル」な情報源を通して得られるという点をふまえれば整合的に理解されよう。また、新ひだか町とむかわ町は、「アイヌ文化を普及している団体」も、それぞれ 26.2％、28.1％と相対的に高くなっている。他方で、「学校の授業や行事」は新ひだか町で 12.7％、むかわ町で 14.4％となっており、相対的に入手経路としては機能していないという特徴も見られる。このように見れば、新ひだか町とむかわ町では、「インフォーマル」な経路の豊富さ、「アイヌ文化を普及している団体」を情報源とすることの相対的な多さ、学校を介した知識経験の低さという特徴を持っている。

他方で、札幌市を見ると、「情報メディア」「施設や展示物」という「公開」された経路を回答する者が５つの地域で最も多く回答されている点、さらに「学校の授業や行事」も 27.6％と最も多く回答されている点を特徴として指摘することができる。札幌市は「生活文化」の知識や経験が多く、他方で「学校の授業や行事」は「生活文化」の情報源として主に機能していると考えられたのであった。また、札幌市の特徴としては、加えて、「家族や親戚」「近所の人」「友人」などが低いという点もある。たとえば、「友人」は 4.3％と５つの地域で最も低くなっている。さらには、「アイヌ文化を普及している団体」も 7.7％と５つの地域で最も低くなっている。このように見れば、札幌市は、情報メディア、施設や展示物、学校などの「フォーマル」な経路が多く、「インフォーマル」な経

路や「アイヌ文化を普及している団体」から情報を得ることが少ないという特徴が見られよう。

そして、アイヌ文化の知識と体験が少ない伊達市の場合には、他の地域と比べて相対的に高く回答される情報源が見られないという特徴がある。また、「家族や親戚」「近所の人」「友人」などの「インフォーマル」な経路はいずれも低くなっている。たとえば、「家族や親戚」は6.3%と５つの地域で最も低い。加えて、「アイヌ文化を普及している団体」も16.4%と札幌市に次いで低い。このように伊達市では、特徴的な情報源が見られない点、さらに「インフォーマル」で「パーソナル」な経路や「アイヌ文化を普及している団体」という経路から情報を得ることが少ない点に特徴が見られる。

また、アイヌ文化の知識と体験に関して「平均」的な特徴を持つ白糠町を見ると、ここでも一見すると他の地域と比べて特徴的な点は見られない。しかし、一方で「施設や展示物」が43.5%と５つの地域で最も低くなっているとともに、他方で、「アイヌ文化を普及している団体」が36.1%と５つの地域で最も高くなっている。この「アイヌ文化を普及している団体」の多さは、「白糠アイヌ文化保存会」（世良・小内 2016）の存在によってもたらされていよう。このような情報源としての施設や展示物の相対的な少なさと、「アイヌ文化を普及している団体」の多さを白糠町の特徴として指摘できる。

このように見れば、第１節で確認したアイヌ文化の知識と体験のあり方と対応した形で、アイヌ文化の情報源に関しても、地域的な特徴が見られよう。

続けて、表８－10から性別・世代別・学歴別にアイヌ文化の情報源を確認してみよう。まず性別を見ると、男性ほど、「近所の人」「友人」という「インフォーマル」な経路、「アイヌ文化を普及している団体」、「仕事」を介してアイヌ文化の情報を得ている傾向が見られる。たとえば、「アイヌ文化を普及している団体」を見ると、男性26.3%、女性17.3%となっている（p=0.000）。他方で、女性ほど高く回答されているのは、「学校の授業や行事」であり男性が15.2%なのに対して、女性では22.3%となっている（p=0.000）。

次に、世代別に見ると、「老年層」は「近所の人」「友人」という「インフォーマル」な経路と「アイヌ文化を普及している団体」を情報源としている傾向が見られる。「近所の人」の具体的な値を見ると、「青年層」3.2%、「壮年層」6.9%、「老年層」14.2%となっている（p=0.000）。また「壮年層」の場合は、「情報メディア」が47.1%と最も高く回答されている（p=0.000）。そして、「青年層」では、「学校の授業や行事」で48.9%となっており、「壮年層」21.0%、「老年層」5.2%と比べてとりわけ高く回答されている。

そして、学歴別に見ると、低学歴の者ほど「インフォーマル」な経路を、高学歴の者ほど、学校や、「情報メディア」「施設や展示物」という「公開」された経路を通じてアイヌ文化の情報を得ている。たとえば、「情報メディア」を見ると、「中学」27.9%、「高校」43.0%、「大学」45.5%となっている（p=0.001）

このように、性別・世代・学歴によって、アイヌ文化の入手経路に特徴的な違いが存在する。その際、とくに注目すべきは、世代に関して、とくに若い世代が学校教育の場を、アイヌ文化の情報源としていた点だろう。先ほど見たように、学校教育をアイヌ文化の入手経路としていたものは、老年世代で１割に満たず、壮年世代で２割程度であったものが、青年世代では半数に迫っていたのであった。実際、調整済み残差を見ても12.438と、その他の有意な違いがある場合と比べてもと

くにその値が高くなっている。このことは、近年になればなるほど、学校が、和人住民にとってアイヌ文化の情報源としての意味を増している可能性を示唆しよう。

表８－10　アイヌ文化の情報源（性別、世代別、学歴別）

	家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア	施設や展示物	仕事	催し	旅行観光	その他	回答者計
男性	10.2%	12.4%	12.8%	15.2%	26.3%	42.0%	49.6%	3.3%	0.5%	0.5%	1.2%	579
女性	9.7%	6.7%	8.4%	22.3%	17.3%	42.9%	54.4%	1.2%	1.0%	1.5%	2.5%	669
合計	9.9%	9.4%	10.4%	19.0%	21.5%	42.5%	52.2%	2.2%	0.8%	1.0%	1.9%	1248
男性	0.279	3.450	2.543	－3.177	3.824	－0.332	－1.707	2.526	－1.044	－1.695	－1.7092	
女性	－0.279	－3.450	－2.543	3.177	－3.824	0.332	1.707	－2.526	1.044	1.695	1.709	
	p=0.780	p=0.001	p=0.011	p=0.001	p=0.000	p=0.74	p=0.088	p=0.012	p=0.297	p=0.09	p=0.087	
青年層	10.4%	3.2%	5.4%	48.9%	14.5%	32.1%	54.3%	1.8%	0.9%	1.4%	3.2%	221
壮年層	9.6%	6.9%	8.1%	21.0%	18.1%	47.1%	54.2%	2.9%	0.4%	1.5%	1.9%	480
老年層	10.0%	14.2%	14.8%	5.2%	26.9%	42.6%	49.8%	1.7%	1.1%	0.6%	1.5%	542
合計	9.9%	9.4%	10.5%	19.1%	21.3%	42.5%	52.3%	2.2%	0.8%	1.0%	1.9%	1243
青年層	0.281	－3.506	－2.728	12.438	－2.738	－3.433	0.658	－0.407	0.184	0.502	1.473	
壮年層	－0.292	－2.430	－2.198	1.406	－2.181	2.605	1.049	1.428	－1.214	1.134	－0.113	
老年層	0.070	5.090	4.262	－10.970	4.252	0.089	－1.538	－1.088	1.050	－1.500	－1.025	
	p=0.942	p=0.000	p=0.00 0	p=0.000	p=0.000	p=0.001	p=0.306	p=0.358	p=0.46	p=0.322	p=0.304	
中学	22.5%	17.1%	22.5%	7.8%	25.6%	27.9%	35.7%	1.6%	1.6%	1.6%	0.0%	129
高校	9.0%	10.8%	11.2%	14.3%	21.7%	43.0%	52.6%	2.0%	0.9%	1.3%	1.7%	544
大学など	8.2%	6.0%	7.1%	26.3%	20.2%	45.5%	55.8%	2.3%	0.5%	0.5%	2.5%	563
合計	10.0%	9.3%	10.5%	19.1%	21.4%	42.6%	52.3%	2.1%	0.8%	1.0%	1.9%	1236
中学	4.973	3.202	4.680	－3.463	1.211	－3.556	－3.990	－0.463	0.993	0.709	－1.653	
高校	－1.064	1.654	0.707	－3.772	0.191	0.289	0.192	－0.177	0.383	1.004	－0.476	
大学など	－1.993	－3.614	－3.577	5.885	－0.934	1.895	2.258	0.460	－0.991	－1.436	1.489	
	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.405	p=0.001	p=0.000	p=0.85	p=0.472	p=0.343	p=0.151	

注)「仕事」「催し」「旅行観光」は、「その他」の回答をアフターコード化した。

この点は、北海道教育委員会が 1984（昭和 59）年に小中学校教員用にアイヌ民族の歴史と文化に関する指導資料や、1992（平成４）年に高等学校用教育指導資料『アイヌ民族に関する指導の手引き』を作成配布したこと、さらに札幌市教育委員会が 1986（昭和 61）年に『アイヌの歴史・文化等に関する指導資料１』『アイヌの歴史・文化等に関する指導資料２』を作成配布した（上野 2014）こと等の学校教育における取り組みが反映された結果かもしれない。いずれにせよ、アイヌ文化の情報源としての学校教育は今後大きな役割を果たす可能性があると思われる。

第２項　学校教育という情報源

この点をふまえて、次に、学校でアイヌの歴史や文化を学んだことがあるのか確認しよう。表８－ 11 によれば、上山（2015b）でもふれたように、学校でアイヌの歴史を学んだ者は札幌市で 39.0％と最も多い。次に高いのは伊達市の 30.9％となっている。そして、新ひだか町 26.5％、むかわ町 22.6％と続き、最も低いのは白糠町で 18.3％となっている。その意味で、学校でアイヌの歴史を学んだ程度には地域的な違いが見られる（p=0.000）。

他方で、学校でアイヌ文化を体験したかを見ると、ここでも札幌市が 14.5％と５つの地域で最も

高い点、むかわ町が6.8％と２番目に低い点から見て、アイヌの歴史と同様の特徴が見られる。しかし、地域の違いを細かく見ると、アイヌの歴史の学習とは異なる特徴が見られる。まず、アイヌの歴史で最も低かった白糠町が9.5％と札幌市に次いで２番目に高い。その意味で、白糠町では学校を通してアイヌの歴史の学習ではなくアイヌ文化の体験がなされている。また、新ひだか町が4.5％、むかわ町で6.8％と低くなっており、その意味で新ひだか町とむかわ町では学校を通してアイヌ文化の体験がなされていない。

このように見れば、学校教育を通して、札幌市では、アイヌの歴史の学習とアイヌ文化の体験がともに多く見られる一方、伊達市ではアイヌの歴史の学習が、白糠町ではアイヌ文化の体験が相対的に見られ、他方で新ひだかではアイヌ文化の体験が少なく、むかわ町ではアイヌの歴史の学習とアイヌ文化の体験が多くは見られないという特徴があろう。

とはいえ、ここで指摘しておいた方がよいのは、アイヌの歴史に関しても、アイヌ文化に関してもその経験者がそれほど多いとはいえないという点かもしれない。改めて全体の動向を見ると、学校でアイヌの歴史を学んだ者は28.3％、学校でアイヌの文化を体験した者は8.9％にすぎないのである。

表８－11　学校でアイヌの歴史を学んだか、アイヌの文化を体験したか

青年層	学校でアイヌの歴史を学んだか	
	割合	回答者計
新ひだか町	26.5%	460
伊達市	30.9%	554
白糠町	18.3%	388
札幌市	39.0%	559
むかわ町	22.6%	499
合計	28.3%	2460
新ひだか町	－0.914	
伊達市	1.553	
白糠町	－4.745	
札幌市	6.420	
むかわ町	－3.116	

p=0.000

青年層	学校でアイヌの文化を体験したか	
	割合	回答者計
新ひだか町	4.5%	465
伊達市	8.2%	563
白糠町	9.5%	402
札幌市	14.5%	564
むかわ町	6.8%	514
合計	8.9%	2508
新ひだか町	－3.647	
伊達市	－0.646	
白糠町	0.463	
札幌市	5.401	
むかわ町	－1.828	

p=0.000

表８－12　学校でアイヌの歴史を学んだか、アイヌの文化を体験したか（地域別世代別）

		学校でアイヌの歴史を学んだか	
		割合	回答者計
新ひだか町	青年層	58.8%	80
	壮年層	30.8%	172
	老年層	10.3%	204
	合計	26.5%	456
	青年層	7.187	
	壮年層	1.611	
	老年層	－7.067	

p=0.000

		学校でアイヌの文化を体験したか	
		割合	回答者計
新ひだか町	青年層	12.5%	80
	壮年層	4.6%	174
	老年層	1.4%	207
	合計	4.6%	461
	青年層	3.749	
	壮年層	0.034	
	老年層	－2.887	

p=0.000

		割合	回答者計
伊達市	青年層	57.8%	83
	壮年層	38.3%	193
	老年層	17.8%	276
	合計	31.0%	552
	青年層	5.74	
	壮年層	2.743	
	老年層	−6.719	

p=0.000

		割合	回答者計
伊達市	青年層	17.9%	84
	壮年層	8.6%	197
	老年層	5.0%	280
	合計	8.2%	561
	青年層	3.499	
	壮年層	0.273	
	老年層	−2.757	

p=0.001

		割合	回答者計
白糠町	青年層	38.3%	47
	壮年層	28.2%	124
	老年層	8.0%	212
	合計	18.3%	383
	青年層	3.792	
	壮年層	3.486	
	老年層	−5.784	

p=0.000

		割合	回答者計
白糠町	青年層	29.2%	48
	壮年層	11.5%	130
	老年層	3.7%	219
	合計	9.3%	397
	青年層	5.045	
	壮年層	1.061	
	老年層	−4.308	

p=0.000

		割合	回答者計
札幌市	青年層	61.3%	137
	壮年層	41.7%	228
	老年層	19.8%	192
	合計	39.0%	557
	青年層	6.179	
	壮年層	1.091	
	老年層	−6.728	

p=0.000

		割合	回答者計
札幌市	青年層	21.2%	137
	壮年層	16.8%	232
	老年層	7.3%	193
	合計	14.6%	562
	青年層	2.508	
	壮年層	1.25	
	老年層	−3.563	

p=0.001

		割合	回答者計
むかわ町	青年層	639.2%	74
	壮年層	34.9%	169
	老年層	10.0%	250
	合計	22.9%	493
	青年層	3.612	
	壮年層	4.574	
	老年層	−6.923	

p=0.000

		割合	回答者計
むかわ町	青年層	11.8%	76
	壮年層	8.5%	176
	老年層	4.3%	255
	合計	6.9%	507
	青年層	1.842	
	壮年層	1.049	
	老年層	−2.314	

p=0.044

		割合	回答者計
合計	青年層	53.7%	421
	壮年層	35.7%	886
	老年層	13.2%	1134
	合計	28.3%	2441
	青年層	12.678	
	壮年層	6.055	
	老年層	−15.441	

p=0.000

		割合	回答者計
合計	青年層	18.1%	425
	壮年層	10.3%	909
	老年層	4.3%	1154
	合計	8.9%	2488
	青年層	7.349	
	壮年層	1.94	
	老年層	−7.42	

p=0.000

ただ、世代別に見ると、若い世代ほど学校を通じてアイヌの歴史やアイヌの文化に触れている点には注目しておく必要があるだろう。表８－12を見よう。５つの地域全体を見ると、アイヌの歴史に関しては、「老年層」は13.2%にすぎないのに対し、「壮年層」で35.7%となり、さらに「青年層」

では53.7％と半数を超えるに至っている。また、アイヌ文化の体験に関しては、「老年層」が4.3％であるのに対し、「壮年層」で10.3％、「青年層」で18.1％となっている。

こうした世代による違いは、地域別に見ても確認することができる。引き続き表８－12を見よう。たとえば、アイヌの歴史について、新ひだか町を見ると、「老年層」10.3％、「壮年層」30.8％、「青年層」58.8％となっている（p=0.000）。また、アイヌの文化について、白糠町を見ると「老年層」3.7％、「壮年層」11.5％、「青年層」29.2％となっている（p=0.000）。このように見れば、若い世代ほど学校教育において、アイヌの歴史や文化を学習する機会が増え、また実際に学習・体験した者が増えてきたといえよう。その意味で、ここからも、アイヌ文化の情報源として学校教育は今後重要な意味を持つ可能性があることがわかる。

ただ、学校でのアイヌ文化体験のうち「青年層」に関して地域別に見ると、全体の動向を反映し、新ひだか町の「青年層」とむかわ町の「青年層」が、それぞれ12.5％、11.8％と１割前半程度となっている。また、伊達市の「青年層」も17.9％とやや低い。実際、表８－13から「青年層」を対象に学校でのアイヌ文化体験を地域別に見ると、10％水準ではあるものの有意な違いが見られる（p=0.074）。そこでは、白糠町と札幌市がそれぞれ29.2％、21.2％と高くなっている。この点は、若い世代において学校を通じたアイヌ文化の体験には地域間の相違があることを示唆しよう。こうした点は、第１節第１項でふれたアイヌ文化の知識と体験に関して新ひだか町・伊達市・むかわ町の若い世代で、その経験者が相対的に少ないという点と符合している。これら３地域の青年層のアイヌ文化の知識と体験の相対的な少なさが、こうした学校での経験の少なさと関連していることを示唆しているのかもしれない。いずれにせよ、たしかに若い世代ほど学校を通じて、アイヌの歴史やアイヌの文化を経験している点は強調されるべき点であるものの、その若い世代の経験の程度には地域による違いが存在していると思われる。

続けて、学校でアイヌの歴史を学んだかという設問の自由回答を見ると、さらに留意すべき点があることがわかる。表８－14を見よう。そこには、学校でアイヌの歴史を学んだ者に対してとくに印象に残っている事柄を自由回答で尋ねた結果をコード化したものを示した[7]。それによれば、「差別、搾取、戦いの歴史」に関する内容が25.4％、アイヌの「生活様式、文化、習俗」に関する内容が23.8％となっており、それらが多くを占めていることがわかる。

表８－13　学校でアイヌの文化を体験したか（「青年層」）

青年層	学校でアイヌの文化を体験した経験	
	割合	回答者計
新ひだか町	12.5%	80
伊達市	17.9%	84
白糠町	29.2%	48
札幌市	21.2%	137
むかわ町	11.8%	76
合計	18.1%	425
新ひだか町	－1.448	
伊達市	－0.069	
白糠町	2.110	
札幌市	1.126	
むかわ町	－1.567	

p=0.074

表８－14　学校でアイヌの歴史をんだか アイヌの文化を体験したか（自由回答）（世代別）

アイヌの歴史	差別、搾取、戦いの歴史	生活様式、文化、習俗	忘れた・覚えていない・印象なし	地名	施設見学	著名人物	その他	回答者計
青年層	21.2%	24.3%	21.2%	5.3%	4.9%	1.3%	2.7%	226
壮年層	28.2%	23.4%	16.8%	4.4%	2.2%	2.2%	3.2%	316
老年層	26.0%	24.0%	18.7%	1.3%	0.0%	1.3%	4.0%	150
合計	25.4%	23.8%	18.6%	4.0%	2.6%	1.7%	3.2%	692
青年層	－1.765	0.212	1.222	1.175	2.608	－0.571	－0.547	
壮年層	1.512	－0.241	－1.158	0.470	－0.585	0.889	－0.020	
老年層	0.180	0.051	0.009	－1.905	－2.262	－0.425	0.647	
	p=0.186	p=0.969	p=0.420	p=0.143	p=0.012	p=0.674	p=0.767	

アイヌの文化	宗教儀礼	衣服・家・工芸・料理	言葉	音楽・楽器・民話・踊り	忘れた・覚えていない・印象なし	施設見学（内容不明）	その他	回答者計
青年層	1.3%	11.7%	6.5%	50.6%	14.3%	7.8%	5.2%	77
壮年層	2.1%	14.9%	4.3%	44.7%	10.6%	22.3%	5.3%	94
老年層	20.0%	22.0%	8.0%	14.0%	14.0%	16.0%	8.0%	50
合計	5.9%	15.4%	5.9%	39.8%	12.7%	15.8%	5.9%	221
青年層	－2.118	－1.114	0.282	2.405	0.528	－2.395	－0.318	
壮年層	－2.041	－0.174	－0.884	1.270	－0.781	2.278	－0.306	
老年層	4.823	1.474	0.723	－4.240	0.321	0.036	0.723	
	p=0.000	p=0.286	p=0.577	p=0.000	p=0.736	p=0.035	p=0.769	

しかし、ここで注意したいのは、「忘れた・覚えていない・印象なし」が18.6％と一定数存在している点であろう。すなわち、学校でアイヌの歴史を学んだとしても、その内容が十分に理解されない場合がある程度見られるのである。そして、「忘れた・覚えていない・印象なし」が存在することは、世代によって有意な違いが見られない（p=0.420）。むしろ、割合から見れば、「青年層」21.2％、「壮年層」16.8、「老年層」18.7％と若い世代が最も高くなっている。

こうした傾向は、学校におけるアイヌ文化の体験の場合にもあてはまる。同じく表８－14を見よう。そこには、学校でアイヌ文化を体験した者に対して、その具体的な内容を自由回答で尋ねた結果をコード化したものも示してある[8)]。そこからも、「忘れた・覚えていない・印象なし」が12.6％と一定の割合で存在しており、それは世代によって違いが見られないことがわかる。

このように世代別に見れば、学校においてアイヌの歴史やアイヌの文化に触れる機会が増えてきたといっても、そうした内容が必ずしも十分に理解されない場合も一定数見られると指摘せざるをえない。

ただし、学校でのアイヌ文化については、もう１つ注目すべき点がある。それは、「音楽・楽器・民話・踊り」である。具体的な記述を見ると、ムックリや踊りを体験したなどの記載が見られる。この「音楽・楽器・民話・踊り」は39.8％ととりわけ高く回答されている。楽器や踊りは、カムイノミなどの祭事と比べて比較的容易に体験しやすいためにこうした結果が得られているのかもしれない。そして、「老年層」14.0％、「壮年層」44.7％、「青年層」50.6％と、世代が若くなるほどその経験が増えている。このことは、学校教育を通したアイヌ文化の体験における「音楽・楽器・民話・踊り」の位置づけの大きさが近年になるほど増していることを示唆している可能性がある。

さらに、この点を念頭におきながら、地域別に学校教育におけるアイヌの歴史と文化を確認してみよう。表８－15を見ると、地域によっていくつか回答に違いが見られることがわかる。まず、

アイヌの歴史を見ると、新ひだか町で「差別、搾取、戦いの歴史」が40.2％と多い一方、「生活様式、文化、習俗」が13.9％と低くなっていることがわかる。新ひだか町の自由回答を見るとシャクシャインという記述が多く見られた。シャクシャイン像がある新ひだか町という地域的な特徴が背景に存在している可能性があるかもしれない。他方で、札幌市では、「地名」「施設見学」が相対的に多く回答されている。たとえば、「地名」は6.4％となっている。

さらに、アイヌ文化の体験について見ると、先に確認した全体的な動向と同じく、５地域ごとに見ても、先ほどふれた「音楽・楽器・民話・踊り」が多く回答されている。その中でとりわけ高く「音楽・楽器・民話・踊り」を回答しているのは白糠町で65.8％となっている。そこには、1997（平成９）年から開始された「白糠アイヌ文化保存会」が地域の小中学校でアイヌ料理や踊りなどを披露する「アイヌ文化出前講座」（世良・小内 2015）の存在が関わっていよう。

先に確認したように、こうした「音楽・楽器・民話・踊り」は、若い世代ほど経験していたのであった。そこでこうした世代間の相違を地域ごとに確認しておこう。表８－16によると、白糠町と札幌市で若い世代ほどそれらを経験していることがわかる。たとえば、白糠町では、「老年層」37.5％、「壮年層」60.0％、「青年層」85.7％となっており、若い世代では８割を超える者が体験している。また、札幌市では、「老年層」7.1％、「壮年層」46.2％、「青年層」51.7％となっている。

表８－15　学校でアイヌの文化を体験したか（自由回答）（地域別）

	差別、搾取、戦いの歴史	生活様式、文化、習俗	忘れた・覚えていない・印象なし	地名	施設見学	著名人物	その他	回答者計
新ひだか町	40.2%	13.9%	23.0%	0.8%	0.0%	2.5%	3.3%	122
伊達市	22.8%	22.8%	21.1%	4.1%	1.8%	0.6%	2.9%	171
白糠町	28.2%	32.4%	11.3%	1.4%	0.0%	5.6%	4.2%	71
札幌市	20.6%	28.4%	17.9%	6.4%	4.6%	1.4%	2.3%	218
むかわ町	20.4%	21.2%	16.8%	4.4%	5.3%	0.9%	4.4%	113
合計	25.3%	23.7%	18.7%	4.0%	2.7%	1.7%	3.2%	695
新ひだか町	4.151	－2.804	1.324	－1.985	－2.039	0.684	0.079	
伊達市	－0.872	－0.331	0.907	0.050	－0.905	－1.320	－0.208	
白糠町	0.582	1.809	－1.696	－1.185	－1.491	2.667	0.538	
札幌市	－1.919	1.968	－0.373	2.169	2.026	－0.480	－0.888	
むかわ町	－1.328	－0.683	－0.563	0.234	1.835	－0.751	0.836	
	p=0.001	p=0.014	p=0.286	p=0.100	p=0.02	p=0.069	p=0.84	

	宗教儀礼	衣服・家・工芸・料理	言葉	音楽・楽器・民話・踊り	忘れた・覚えていない・印象なし	施設見学（内容不明）	その他	回答者計
新ひだか町	9.5%	9.5%	9.5%	28.6%	19.0%	28.6%	0.0%	21
伊達市	4.3%	10.9%	8.7%	28.3%	21.7%	15.2%	8.7%	46
白糠町	7.9%	15.8%	10.5%	65.8%	5.3%	5.3%	5.3%	38
札幌市	2.4%	18.3%	1.2%	41.5%	13.4%	18.3%	4.9%	82
むかわ町	11.4%	17.1%	5.7%	31.4%	2.9%	14.3%	8.6%	35
合計	5.9%	15.3%	5.9%	40.1%	12.6%	15.8%	5.9%	222
新ひだか町	0.752	－0.774	0.752	－1.132	0.933	1.692	－1.201	
伊達市	－0.489	－0.940	0.921	－1.839	2.094	－0.115	0.921	
白糠町	0.588	0.089	1.347	3.551	－1.499	－1.951	－0.171	
札幌市	－1.659	0.943	－2.252	0.320	0.275	0.791	－0.475	
むかわ町	1.530	0.327	－0.039	－1.139	－1.894	－0.262	0.746	
	p=0.32	p=0.754	p=0.208	p=0.004	p=0.056	p=0.184	p=0.624	

他方で、伊達市を見ると、「老年層」14.3％、「壮年層」29.4％、「青年層」40.0％となっており、割合から見れば、若い世代ほど学校で「音楽・楽器・民話・踊り」を体験しているものの有意確率はp=0.304であり、有意な違いがあるとはいえない。さらに、新ひだか町とむかわ町の場合も、世代によっては有意な違いが見られない（新ひだか町p=0.467、むかわ町p=0.124）。また、割合を確認すると、青年世代は、老年世代よりも体験しているものの、壮年世代よりは体験していない。新ひだか町では、「老年層」0.0％、「壮年層」37.5％、「青年層」30.0％、むかわ町では、「老年層」9.1％、「壮年層」46.7％、「青年層」33.3％となっている。この点は、新ひだか町とむかわ町の若い世代は、相対的に見て、学校で「音楽・楽器・民話・踊り」を体験していないことを示していよう。実際、表８－17から「青年層」を対象に地域別に「音楽・楽器・民話・踊り」を見ると、有意確率がp=0.035であり、地域による違いが見られると判断できる。

こうした若い世代における「音楽・楽器・民話・踊り」の地域間の相違は、第１節第１項で見た新ひだか町・伊達市・むかわ町の若い世代で「生活文化」に関するアイヌ文化の知識と体験が相対的に少ないと解釈できる点、さらに先に見たこれら３地域の若い世代は相対的に見て学校でのアイヌ文化の体験が少ない点と符合していよう。これらからは、若い世代における「生活文化」の地域間相違は、「音楽・楽器・民話・踊り」を中心とした学校におけるアイヌ文化の体験のあり方の地域間相違を背景に生じている可能性がある点が浮き彫りとなる。さらには、このことは学校教育におけるアイヌ文化の体験の取り組みには地域間の相違が存在していることも示唆しよう。

表８－16　「音楽・楽器・民話・踊り」（地域別世代別）

		割合	回答者計
合計	青年層	50.6%	77
	壮年層	44.7%	94
	老年層	14.0%	50
	合計	39.8%	221
	青年層	2.405	
	壮年層	1.27	
	老年層	－4.24	
		p=0.000	

		割合	回答者計
新ひだか町	青年層	30.0%	10
	壮年層	37.5%	8
	老年層	0.0%	3
	合計	28.6%	21
	青年層	0.138	
	壮年層	0.71	
	老年層	－1.183	
		p=0.467	

		割合	回答者計
伊達市	青年層	40.0%	15
	壮年層	29.4%	17
	老年層	14.3%	14
	合計	28.3%	46
	青年層	1.23	
	壮年層	0.133	
	老年層	－1.392	
		p=0.304	

		割合	回答者計
白糠町	青年層	85.7%	14
	壮年層	60.0%	15
	老年層	37.5%	8
	合計	64.9%	37
	青年層	2.073	
	壮年層	－0.512	
	老年層	－1.831	
		p=0.065	

		割合	回答者計
札幌市	青年層	51.7%	29
	壮年層	46.2%	39
	老年層	7.1%	14
	合計	41.5%	82
	青年層	1.395	
	壮年層	0.821	
	老年層	－2.862	
		p=0.015	

		割合	回答者計
むかわ町	青年層	33.3%	9
	壮年層	46.7%	15
	老年層	9.1%	11
	合計	31.4%	35
	青年層	0.143	
	壮年層	1.682	
	老年層	－1.927	
		p=0.124	

表８－17　「音楽・楽器・民話・踊り」(「青年層」)

	音楽・楽器・民話・踊り	
	割合	回答者計
新ひだか町	30.0%	10
伊達市	40.0%	15
白糠町	85.7%	14
札幌市	51.7%	29
むかわ町	33.3%	9
合計	50.6%	77
新ひだか町	－1.400	
伊達市	－0.919	
白糠町	2.901	
札幌市	0.147	
むかわ町	－1.106	

p=0.035

第３節　アイヌ文化の現状と今後

第１項　アイヌ文化の現状認識と残し方

それでは、こうした知識と体験のあり方を持つ和人住民は、アイヌ文化の現状をどのように評価しているのだろうか。表８－18を見よう。まず、アイヌ文化を「ある程度残っている」と回答する者が33.7%、「あまり残っていない」と回答する者が32.1%とそれらがそれぞれ約３割程度回答されている。その意味で、アイヌ文化の現状に関しては評価が分かれている。また、「わからない」と回答する者も26.2%存在している。

表８－18　アイヌ文化の現状

	かなり残っている	ある程度残っている	あまり残っていない	全然残っていない	わからない	合計
新ひだか町	5.9%	37.2%	26.7%	2.4%	27.9%	495
伊達市	2.2%	23.5%	39.6%	5.0%	29.8%	584
白糠町	8.7%	46.4%	20.0%	1.4%	23.6%	416
札幌市	1.2%	27.1%	41.7%	4.8%	25.2%	568
むかわ町	4.8%	39.0%	27.9%	4.6%	23.7%	523
合計	4.3%	33.7%	32.1%	3.8%	26.2%	2586
新ひだか町	1.968	1.806	－2.858	－1.769	0.956	
伊達市	－2.76	－5.961	4.412	1.692	2.259	
白糠町	4.855	5.969	－5.775	－2.737	－1.328	
札幌市	－4.039	－3.771	5.589	1.362	－0.616	
むかわ町	0.668	2.863	－2.272	1.072	－1.439	

p=0.000

地域別に確認すると、地域によって回答傾向に違いが見られる（p=0.000）。たとえば、新ひだか町、白糠町、むかわ町では「かなり残っている」「ある程度残っている」と回答する者が多く見られる。白糠町の割合を見ると、「かなり残っている」8.7%、「ある程度残っている」46.4%となっている。他方で、伊達市と札幌市では、「あまり残っていない」が多く回答されている。伊達市で39.6%、札幌市で41.7%存在している。また、伊達市の場合は、「わからない」者が29.8%と３割近く存在してもいる。

こうした地域別の回答傾向の違いは、各地域の特徴をふまえれば整合的に理解されよう。すなわち、アイヌ文化が色濃く残る新ひだか町、アイヌ文化を「まちづくり」の核の一つに据えた白糠町、そもそもアイヌの人々が多く住んでいたむかわ町ではアイヌ文化が残っていると評価される一方、同化が早く進んだと評価される伊達市やもともとアイヌの方があまり住んでいなかった札幌市ではアイヌ文化が残っていないと評価されている。また、伊達市は、現在アイヌ文化の知識や体験をしている者が最も少ないために、アイヌ文化の現状を「わからない」と回答していると解釈できよう。

では、このような現状認識のもと、アイヌ文化をどのように残すべきと考えているのだろうか。表８－19を見よう。まず、全体の傾向を見ると、「日本の国として残すべきだと思う」が47.7％と半数に迫っている。そして、「アイヌの人たちが残すべきだと思う」が20.9％、「地域ごとに残すべきだ」が27.0％となっている。

しかし、地域別の相対的な特徴も見られる（p=0.000）。まず、伊達市と札幌市では「日本の国として残すべきだと思う」が、他の地域と比べてより一層強く見られる。具体的に値を確認すると、伊達市で55.9％、札幌市で57.0％と半数を超えている。他方で、新ひだか町とむかわ町では、「アイヌの人たちが残すべきだと思う」が25.0％、28.1％と多く回答されている。また、白糠町も20.2％と伊達市（16.7％）や札幌市（15.7％）と比べて高い。また、これらの３地域は、「地域ごとに残すべきだと思う」も相対的に高く、新ひだか町で30.3％、白糠町で31.3％、むかわ町で28.7％となっている。

こうした見解は、先に見たアイヌ文化の現状認識とおおむね対応していよう。すなわち、アイヌ文化が残っていないと回答しやすい伊達市や札幌市では、日本の国として残すべきと回答する傾向が見られる一方、アイヌ文化が残っていると回答しやすい新ひだか町・白糠町・むかわ町では、日本という国としてではなく、アイヌの人たちや地域ごとに残すべきだと考えている。とくに、白糠町ではアイヌ文化を「まちづくり」の核に据えたために地域ごとに残すべきだと考えられていると解釈できる。このようにアイヌ文化をどのように残すかという点については地域間の相違が見られる。

ただし、５つの地域いずれにおいても「日本の国として残すべきだと思う」が最も高く回答されている点には注目しておこう。「日本の国として残すべきだと思う」が最も低いむかわ町を見ても38.8％がそうした考えを持っている。その意味で、アイヌ文化は日本の国として残すべきという考えが多数である点は、地域に共通した特徴といえる。

表８－19　アイヌ文化の残し方

	アイヌの人たちが残すべきだと思う	日本の国として残すべきだと思う	地域ごとに残すべきだと思う	その他	合計
新ひだか町	25.0%	39.3%	30.3%	5.3%	468
伊達市	16.7%	55.9%	22.7%	4.7%	556
白糠町	20.2%	44.6%	31.3%	4.0%	377
札幌市	15.7%	57.0%	24.0%	3.4%	567
むかわ町	28.1%	38.8%	28.7%	4.5%	516
合計	20.9%	47.7%	27.0%	4.3%	2484
新ひだか町	2.400	－4.052	1.823	1.171	
伊達市	－2.768	4.388	－2.6	0.431	
白糠町	－0.402	－1.344	2.055	－0.382	
札幌市	－3.489	5.004	－1.824	－1.325	
むかわ町	4.496	－4.591	0.983	0.137	

p=0.000

こうしたアイヌ文化の残し方に関する見解について、その内実を、新ひだか町・伊達市・白糠町で行ったインタビュー調査の結果に基づいて検討してみよう。それを見ると、ほとんどの者がアイヌ文化を残すという方向に同意をしている。

こうした残すという方向性に関しては、まず、アイヌの同化や搾取の歴史という点をふまえてアイヌ文化を「残すべき」だというロジックが使われている。たとえば、以下のようなインタビュー結果が見られる。

【新ひだか町、男性、老年層】

「そうですね。アイヌ民族は単一民族ということを証明されているわけですから、この文化は非常に大事だと思います。これは残すべきだと思います。言うなれば、アイヌモシリ、蝦夷とも言いますけれど、そもそも、その先はアイヌモシリと言っていますので、アイヌの国だということです。やっぱり、そういう民族に対して、その文化は残していかなければ仕方がない。明治に入ってから、そういう文化はまったく抹殺されましたからね。食文化から、何から。これは明治政府の責任だと思いますね。」

【白糠町、男性、青年層】

「いや、やっぱりね。ずっと最初から住んでるっていうか、間違いなく、うちらより先に入って来てるっていうからさ､そこら辺は尊重してあげなきゃダメかなっていう気持ちではあるよ。〈中略〉やっぱり、先に住んでこうやって開拓とかやってくれたから俺らがいるわけであってさ。」

また、同じく「残すべき」と考える者でも、地域的文化的遺産という点を根拠として残すべきだというロジックを用いている者も存在している。

【新ひだか町、男性、老年層】

「それは、アイヌばかりでなくてね、長い時間かけて育てて来た文化ですから当然大事にしていかなければ。」

【伊達市、男性、老年層】
「全国各地いろいろな文化があり、長年その地域の住民が残して復活させていくから、それと同じだと思う。」

こうした「残すべき」という見解を持つ者が存在する一方、「残してもよい」というトーンの者も存在している。そこでは、アイヌ文化の現状をよく把握していないためというロジックが用いられている。

【新ひだか町、女性、老年層】
「どうなんだろうかね。知らないし、残すのは残していいんじゃないかと思いますけれども、むずかしいですよね。そして、今の時代になると、全然、興味どころか「何それ？」なんていうように、わからない人がたぶん多いと思うんですよ。」

【白糠町、男性、老年層】
「残してもいいんじゃないの。〈中略〉よく分からないんだよ。だいたいアイヌの人が何人いるかも知らないからね。（調査者：アイヌ文化を残すべきというのは、なくなったらもったいないからというような理由になりますか？）う〜ん。いや、アイヌの人が実際にいるわけだから、残すのなら残してかまわないんじゃないですか。」

ただし、こうした「残してもよい」という場合には、もう一つのロジックが存在している。たとえば、

【新ひだか町、男性、壮年層】
「文化としては残してもいんじゃないの？そんなこだわる必要ない。まあ、そんな伝統的なものを無理してなくす必要もないし。アイヌの人はアイヌの人でやればいいことだし。うちらが反対することでもないし。見に行くとかそんなことは自由だから別にいんじゃない？いや、やる人がいれば復活すればいいことで、うちらがなんも言うことでもない。参加もしないけども。」

というインタビュー結果が見られる。ここからは、アイヌ文化を残すことは、和人側の問題ではなく、アイヌの人々の問題であるという前提認識が存在していることがわかる。
こうした認識が強まると、たとえば、以下のような見解になると思われる。

【新ひだか町、男性、老年層】
「今のままでいい。今やっているものに関して反対することもないし。ただ自分たちで頑張って努力しなさいということですよ。それを国でなんとかしてというのはおかしい。国でやらなければ滅びちゃうのなら、滅びなさい。ただ自分たちでがんばってやっていくのだったら、それでいいんじゃないかと思いますよ。（調査者：とくに援助することなく、自分たちでできることで続ければいいということですね？）そう思いますよね。自分たちでやっていくこと、続けていくことに誰も

反対する人いないでしょ。アイヌの文化はアイヌの文化でいいし。」

そして、このようなアイヌ文化（の再興）はアイヌの人々の問題であるという前提認識は、アイヌ文化を残すべきと考える者においても現れている。それゆえに、和人はアイヌの人々の再興活動のサポートにまわるべきだという見解に至ることになる。

【伊達市、女性、老年層】
「実際にこういう文化があったということを残すのはいいと思う。カムイノミやアイヌ語など、私たちがというよりもアイヌの方たちがどう思っているかが大事。本人たちが残したいと思っているのか、まわりから残そうということなのかと思う。本人たちが残したくても、まわりが協力してくれないからできないということはあってはいけない。まわりは協力すべきだと思う。」

このように見てくると、和人住民のアイヌ文化の残し方に関する見解には、「残すべき」という強い主張から「残してもよい」という許容まで共通して、アイヌ文化（の再興）は基本的にはアイヌの人々が担うものだという認識が存在しているように思える。
こうした認識の背景には、アイヌ文化はそもそもアイヌの方のものであるからというロジックが存在していると思われる。たとえば、以下のようなインタビュー結果が見られる。

【伊達市、男性、青年層】
「失われた文化を復活すべきといっても誰がやるのかと思う。たとえば俺がやるといってもヨサコイをやるみたいで意味がない。」

しかし、それ以外にも、以下のようなインタビュー結果からわかるように、アイヌであると知られることを好まないアイヌの人々が存在しているという認識を示す者が存在している。

【新ひだか町、男性、壮年】
「残すのは残すので別にいいんだけど、私はアイヌじゃないと思いたい人はたくさんいるからね」

【伊達市、男性、老年層】
「差別を受けるかもしれないのにあえて伝統を受け継ごうというのは若い人にはむずかしいのかなという気はする。」

【白糠町、女性、老年層】
「（調査者：じゃ、アイヌを観光やまちづくりの柱にすることについては、やったほうがいいと思いますか。）本人たちはどうなのでしょうね。それがいいと思われる方と、そんなの、アイヌ、アイヌと言われるのがたとえば嫌だと、そういう言葉で言われるのが、いま現在は嫌だって思われる方と、その辺が難しいですよね、きっとね。もしご本人たちがそういうことの、まちづくりの柱になってかまわなければ応援してあげたいし。」

こうした点が、アイヌ文化やその再興は、アイヌの人々自身の問題であるという認識の背景に存在していると思われる。

このように見てくると、和人住民が持つアイヌ文化の残し方に関する見解には、アイヌ文化を「残すべきだ」or「残してもよい」が、それは基本的にはアイヌの人々の問題であり、和人はサポートに回るべきだというロジックがおおよそ存在していると解釈できる。

その結果として、表８－16で見たように５つの地域でアイヌ文化は「日本の国として残すべきだと思う」という考えが多くを占めていたのではないだろうか。また、アイヌ文化（の再興）はアイヌの方の問題という前提認識が、新ひだか町・白糠町・むかわ町では他の地域よりも強く存在するために、それら３地域では「アイヌの人たちが残すべきだと思う」という考えが相対的に多く見られたと思われる。これら３地域は、先にふれたようにアイヌ文化が現在残っていると現状認識していた。この点をふまえると、アイヌ文化が残っているがゆえにそれはアイヌの人々のものだという認識を持っていると思われる。

第２項　将来体験したいアイヌ文化

それでは、こうした現状認識や残し方に関する見解を持つ和人住民は、自身で将来アイヌ文化を体験したいと考えているのだろうか。表８－20を見よう。それによれば、25.2％の者が将来体験したいアイヌ文化があると回答している。アイヌ文化のタイプ別に見ると、「宗教儀礼」が8.3％、「生活文化」が21.1％と「生活文化」に関連するアイヌ文化を体験したいと考える者が多い。こういった「宗教儀礼」よりも「生活文化」が多く回答されている点は、アイヌ文化の知識と体験の場合と同様の特徴である。

表８－20　将来体験したいアイヌ文化

	体験したいアイヌ文化		体験したい宗教儀礼		体験したい生活文化	
	割合	回答者計	割合	回答者計	割合	回答者計
新ひだか町	16.6%	398	5.3%	398	13.6%	398
伊達市	23.4%	474	8.4%	474	19.8%	474
白糠町	17.9%	347	5.2%	347	15.0%	347
札幌市	39.2%	490	14.1%	490	33.3%	490
むかわ町	25.1%	435	7.1%	435	20.7%	435
合計	25.2%	2144	8.3%	2144	21.1%	2144
新ひだか町	－4.382		－2.456		－4.095	
伊達市	－1.005		0.080		－0.784	
白糠町	－3.431		－2.326		－3.062	
札幌市	8.127		5.223		7.493	
むかわ町	－0.069		－1.032		－0.251	
	p=0.000		p=0.000		p=0.000	

ただ、ここで指摘しておくべきは、アイヌ文化の体験する者と比べて回答者が多いものの、将来アイヌ文化に関わりたいと考えている者は約１／４であるという点かもしれない。この点には、先にふれた和人住民が持つアイヌ文化（の再興）はアイヌの問題という認識が関連していよう。

とはいえ、こうした将来希望に、地域別の違いが見られる点にも注目したほうがよい（p=0.000）。そこでは、札幌市が39.2％ととりわけ高くなっている。次に回答者が見られるのは、むかわ町の25.1％である。他方で、将来体験したい者が少ないのは新ひだか町と白糠町でそれぞれ16.6％と

17.9％になっている。アイヌ文化の知識と体験が最も低かった伊達市では、23.4％と５地域中でちょうど中間に位置づきその意味で「平均」的な特徴を持つ。こうした傾向は、アイヌ文化のタイプ別に見てもおおよそ確認することができる。たとえば「宗教儀礼」を見ると、札幌市 14.1％であるのに対し、新ひだか町 5.3％、むかわ町で 7.1％となっているからである。このように見れば、将来体験したいアイヌ文化の地域的特徴は、アイヌ文化の知識と体験と共通した側面もあるものの、独自の特徴がある。

では、こうした将来体験したいアイヌ文化の地域間の相違はなにゆえに生じているのか。まず、この点に関しては、アイヌ文化の知識と体験のあり方が関連していよう。現在においてアイヌ文化の経験があると、今後もアイヌ文化と関わりを持とうと考えるだろう。実際、将来体験したいアイヌ文化が多かった札幌市は、アイヌ文化の知識や体験も最も多かった。また、将来体験したいアイヌ文化が２番目に多いむかわ町は、アイヌ文化の知識や体験も２番目に多かった。

表８－21 を見よう。そこには、アイヌ文化の知識と体験のあり方別に将来体験したいアイヌ文化の有無を整理した。アイヌ文化の知識と体験のあり方については、アイヌ文化の知識も体験もない者、アイヌ文化の知識はある者、アイヌ文化の体験をしたことがある者という３カテゴリに整理した。それによれば、アイヌ文化の知識、さらにアイヌ文化の体験がある者ほど、将来体験したいアイヌ文化があることがわかる。たとえば、「宗教儀礼」の場合を見よう。そこでは、将来体験したい「宗教儀礼」がある者は、「宗教儀礼」に関する知識や体験がない「宗教儀礼なし」で 7.1％、「宗教儀礼」に関する知識はある「宗教儀礼知識」で 8.5％、「宗教儀礼」に関する体験をしたことがある「宗教儀礼体験」で 29.2％となっている（p=0.000）。こうした傾向は、「生活文化」に関しても同様にあてはまる。

表８－21　将来体験したいアイヌ文化（知識体験別）

	体験したい宗教儀礼	
	割合	回答者計
宗教儀礼なし	7.1%	1671
宗教儀礼知識	8.5%	377
宗教儀礼体験	29.2%	96
合計	8.3%	2144
宗教儀礼なし	－3.862	
宗教儀礼知識	0.108	
宗教儀礼体験	7.545	

p=0.000

	体験したい生活文化	
	割合	回答者計
宗教儀礼なし	17.5%	1671
宗教儀礼知識	28.1%	377
宗教儀礼体験	57.3%	96
合計	21.1%	214
宗教儀礼なし	－7.79	
宗教儀礼知識	3.661	
宗教儀礼体験	8.881	

p=0.000

	体験したい宗教儀礼	
	割合	回答者計
生活文化なし	7.1%	1223
生活文化知識	6.1%	668
生活文化体験	20.2%	253
合計	8.3%	2144
生活文化なし	－2.383	
生活文化知識	－2.49	
生活文化体験	7.23	

p=0.000

	体験したい生活文化	
	割合	回答者計
生活文化なし	14.5%	1223
生活文化知識	22.6%	668
生活文化体験	49.4%	253
合計	21.1%	2144
生活文化なし	－8.7	
生活文化知識	1.126	
生活文化体験	11.732	

p=0.000

なお、同じく表８－21から、「宗教儀礼」に関する知識と体験のあり方と「生活文化」に関する将来希望の関連を確認しておこう。それによれば、将来体験したい「生活文化」がある者は、「宗教儀礼なし」で17.5％、「宗教儀礼」に関する知識はある「宗教儀礼知識」で28.1％、「宗教儀礼」に関する体験をしたことがある「宗教儀礼体験」で57.3％となっている（p=0.000）。こうした傾向は、「生活文化」に関する知識と体験のあり方と「宗教儀礼」に関する将来希望の関連の場合にも当てはまる。このように見れば、アイヌ文化の知識や体験があれば、異なったタイプのアイヌ文化に関しても、将来体験したいと考える傾向が見られるといえよう。

ただ、このような解釈のみに従うと、アイヌ文化の知識と体験が低かった伊達市の動向を十分に解釈できない。すなわち、こうした解釈に従えば、アイヌ文化の知識と体験が低かった伊達市では将来体験したいアイヌ文化も低くなると予想されるものの、しかし伊達市は５つの地域の中で「平均」的な特徴を持っていたのである。

それでは、こうした伊達市の動向はどのように解釈できるのだろうか。一つ考えることができるのは学歴である。第１節第１項でふれたように、高学歴の者ほどアイヌ民族やアイヌ文化の問題に関心をよせる可能性があり、さらに、アイヌに関する事柄に限らず様々な社会問題的な事柄に関心を持つ蓋然性が高まる。それゆえに、こうした学歴のあり方は、アイヌ文化の知識と体験の地域間相違を部分的に説明できたのであった。こうしたメカニズムが将来体験したいアイヌ文化においてもあてはまるのではないか。

そこで、まず表８－22から、学歴別に将来体験したいアイヌ文化があるか確認しよう。それによれば、学歴が高いほど将来アイヌ文化を体験したいと考えていることがわかる。「生活文化」を見ると、「中学」13.4％、「高校」18.3％、「大学など」27.5％となっている（p=0.000）。この点は、学歴別に見たアイヌ文化の知識と体験と同様の特徴である。ただし、将来アイヌ文化を体験したいかどうかは、アイヌ文化の知識と体験では確認することができなかった「宗教儀礼」に関しても、学歴による違いが存在している。具体的に値を確認すると、「中学」5.5％、「高校」6.8％、「大学など」11.0％となっている（p=0.000）。その意味で、学歴は、アイヌ文化の知識と体験のあり方以上に、将来体験したいアイヌ文化の違いをもたらしている。

表８－22　将来体験したいアイヌ文化（性別、世代別、学歴別）

	合計			
	体験したいアイヌ文化	体験したい宗教儀礼	体験したい生活文化	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	23.2%	8.8%	18.8%	964
女性	26.9%	7.9%	23.2%	1170
合計	25.3%	8.3%	21.2%	2134
男性	－1.951	0.722	－2.468	
女性	1.951	－0.722	2.468	
	p=0.051	p=0.47	p=0.014	

	新ひだか町			
	体験したいアイヌ文化	体験したい宗教儀礼	体験したい生活文化	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	17.6%	5.7%	14.5%	193
女性	15.7%	4.9%	12.7%	204
合計	16.6%	5.3%	13.6%	397
男性	0.516	0.355	0.512	
女性	－0.516	－0.355	－0.512	
	p=0.606	p=0.723	p=0.609	

	伊達市			
	体験したいアイヌ文化	体験したい宗教儀礼	体験したい生活文化	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	18.5%	7.6%	14.7%	211
女性	27.5%	9.2%	24.0%	262
合計	23.5%	8.5%	19.9%	473
男性	－2.295	－0.613	－2.534	
女性	2.295	0.613	2.534	
	p=0.022	p=0.54	p=0.011	

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	26.2%	10.0%	21.0%	409
壮年層	26.7%	9.8%	22.3%	820
老年層	23.5%	6.3%	20.2%	901
合計	25.3%	8.4%	21.2%	2130
青年層	0.468	1.356	−0.081	
壮年層	1.218	1.846	1.022	
老年層	−1.572	−2.899	−0.942	

p=0.284 p=0.015 p=0.56

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	12.3%	3.7%	12.3%	81
壮年層	14.1%	3.7%	11.7%	163
老年層	21.2%	7.9%	15.9%	151
合計	16.5%	5.3%	13.4%	395
青年層	−1.119	−0.726	−0.317	
壮年層	−1.054	−1.214	−0.861	
老年層	1.997	1.833	1.136	

p=0.128 p=0.186 p=0.519

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	22.5%	7.5%	17.5%	80
壮年層	25.9%	12.1%	22.4%	174
老年層	21.9%	5.9%	18.7%	219
合計	23.5%	8.5%	19.9%	473
青年層	−0.224	−0.337	−0.584	
壮年層	0.938	2.154	1.056	
老年層	−0.738	−1.829	−0.583	

p=0.641 p=0.09 p=0.557

	割合	割合	割合	回答者計
中学	17.9%	5.5%	13.4%	307
高校	22.3%	6.8%	18.3%	945
大学など	31.2%	11.0%	27.5%	855
合計	25.3%	8.3%	21.3%	2107
中学	−3.219	−1.902	−3.683	
高校	−2.827	-2.3	−3.036	
大学など	5.176	3.695	5.72	

p=0.000 p=0.001 p=0.000

	割合	割合	割合	回答者計
中学	10.3%	3.8%	5.1%	78
高校	16.9%	3.8%	14.8%	183
大学など	20.0%	8.1%	17.0%	135
合計	16.7%	5.3%	13.6%	396
中学	−1.695	−0.641	−2.443	
高校	0.135	−1.216	0.601	
大学など	1.280	1.817	1.418	

p=0.183 p=0.192 p=0.043

	割合	割合	割合	回答者計
中学	21.1%	8.8%	15.8%	57
高校	18.3%	7.9%	13.1%	229
大学など	30.6%	8.9%	30.0%	180
合計	23.4%	8.4%	20.0%	466
中学	−0.445	0.117	−0.84	
高校	−2.531	−0.39	−3.64	
大学など	2.899	0.321	4.303	

p=0.014 p=0.926 p=0.000

	白糠町			
	体験したいアイヌ文化	体験したい宗教儀礼	体験したい生活文化	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	17.0%	6.5%	13.1%	153
女性	18.4%	3.7%	16.3%	190
合計	17.8%	5.0%	14.9%	343
男性	−0.344	1.21	−0.839	
女性	0.344	−1.21	0.839	

p=0.731 p=0.226 p=0.401

	札幌市			
	体験したいアイヌ文化	体験したい宗教儀礼	体験したい生活文化	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	39.6%	15.1%	32.3%	192
女性	39.1%	13.5%	34.0%	297
合計	39.3%	14.1%	33.3%	489
男性	0.116	0.508	−0.393	
女性	−0.116	−0.508	0.393	

p=0.907 p=0.612 p=0.694

	むかわ町			
	体験したいアイヌ文化	体験したい宗教儀礼	体験したい生活文化	
	割合	割合	割合	回答者計
男性	22.8%	8.8%	18.6%	215
女性	27.6%	5.5%	23.0%	217
合計	25.2%	7.2%	20.8%	432
男性	−1.163	1.332	−1.135	
女性	1.163	−1.332	1.135	

p=0.245 p=0.183 p=0.256

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	20.0%	10.0%	12.0%	50
壮年層	19.7%	6.0%	17.9%	117
老年層	15.9%	2.8%	13.6%	176
合計	17.8%	5.0%	14.9%	343
青年層	0.443	1.778	−0.617	
壮年層	0.653	0.63	1.154	
老年層	−0.932	−1.853	−0.659	

p=0.647 p=0.099 p=0.493

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	44.0%	17.6%	36.0%	125
壮年層	42.2%	16.5%	34.5%	206
老年層	31.6%	8.2%	29.7%	158
合計	39.3%	14.1%	33.3%	489
青年層	1.257	1.299	0.733	
壮年層	1.147	1.298	0.453	
老年層	−2.383	−2.582	−1.162	

p=0.056 p=0.034 p=0.488

	割合	割合	割合	回答者計
青年層	19.2%	6.8%	15.1%	73
壮年層	25.6%	7.5%	20.6%	160
老年層	27.4%	7.1%	23.4%	197
合計	25.3%	7.2%	20.9%	430
青年層	−1.33	−0.131	−1.351	
壮年層	0.101	0.179	−0.12	
老年層	0.904	−0.076	1.134	

p=0.383 p=0.981 p=0.329

	割合	割合	割合	回答者計
中学	11.1%	1.4%	9.7%	72
高校	18.5%	5.8%	15.6%	173
大学など	23.1%	7.7%	19.8%	91
合計	18.2%	5.4%	15.5%	336
中学	−1.749	−1.687	−1.523	
高校	0.168	0.355	0.068	
大学など	1.426	1.159	1.329	

p=0.142 p=0.194 p=0.211

	割合	割合	割合	回答者計
中学	24.2%	12.1%	18.2%	33
高校	38.4%	10.7%	32.7%	159
大学など	41.4%	15.9%	35.3%	295
合計	39.2%	14.0%	33.3%	487
中学	−1.825	−0.316	−1.905	
高校	−0.269	−1.45	−0.183	
大学など	1.197	1.554	1.155	

p=0.156 p=0.292 p=0.140

	割合	割合	割合	回答者計
中学	28.4%	6.0%	22.4%	67
高校	22.4%	6.0%	18.4%	201
大学など	27.3%	8.4%	23.4%	154
合計	25.1%	6.9%	20.9%	422
中学	0.667	0.318	0.337	
高校	−1.233	−0.698	−1.179	
大学など	0.773	0.966	0.967	

p=0.461 p=0.627 p=0.492

先に表８－４でふれたように、伊達市は札幌市に次いで２番目に高学歴の者が多かった。この点をふまえれば、こうした相対的な学歴の高さが、伊達市における５つの地域の中での「平均」的な特徴をもたらしていたと解釈できよう。

対して、将来体験したいアイヌ文化が少ない新ひだか町・白糠町を見ると、高学歴の者が相対的に少なかったのであった。この点をふまえれば、このような学歴のあり方が、新ひだか町と白糠町において、将来体験したいアイヌ文化の少なさをもたらしていると思われる。

加えて、新ひだか町や白糠町において、将来体験したいアイヌ文化が多くは見られない背景には、これらの地域でアイヌ文化は「アイヌの人たちが残すべきだと思う」と考える者が相対的に見られたことも関連している可能性があろう。すなわち、アイヌ文化はアイヌの人々が残すべきものであると考えているために、和人住民である自身はアイヌ文化に関わらないと考えていると思われる。

ただ、こうした「アイヌの人たちが残すべきだと思う」と考える者はむかわ町でも多く見られていた。また、学歴を見ても、むかわ町では「中学」が 19.5％となっており、その意味で新ひだか町や白糠町と共通の特徴を持っている。しかし、むかわ町は札幌市に次いで将来体験したいアイヌ文化があると回答されていた。その点をふまえると、むかわ町の動向を理解する上では、新ひだか町と白糠町の特徴を説明する際に用いた解釈のみでは十分な説明ができない。

こうしたむかわ町の特徴については、まずは、さきほどふれたように、むかわ町ではアイヌ文化の知識と体験が札幌市に次いで２番目に大きかったことが関連していよう。すなわち、現在アイヌ文化の知識や体験があるからこそ、将来もアイヌ文化を体験しようと考えている。

ただ、それに加えて、むかわ町のアイヌ文化の情報源のあり方も、むかわ町における将来アイヌ文化を体験したい者の多さに関連しているかもしれない。表８－７に戻ろう。先にふれたように、むかわ町は新ひだか町と同様に「インフォーマル」な経路を通じてアイヌ文化に触れているという特徴が見られた。ただ、新ひだか町とむかわ町を詳細に比べると、「家族や親戚」に関して、新ひだか町では 10.5％、むかわ町では 16.0％とむかわ町の方が高くなっている。同じ「インフォーマル」な経路といっても、「家族や親戚」は、「近所の人」や「友人」と比べると、より密接な関係性にあるだろう。その意味で、むかわ町は、新ひだか町よりも一層、アイヌ文化に接する経路が身近にあると思われる。こうした「インフォーマル」な経路の相対的な違いが、むかわ町と新ひだか町の将来体験したいアイヌ文化の違いの背景に存在しているかもしれない。

とはいえ、いずれにせよ、このように将来体験したいアイヌ文化には地域間の違いが見られる。では、性別・世代別によって将来体験したいアイヌ文化には違いが見られるのだろうか。表８－22 を見よう。まず、性別では、女性ほど「生活文化」が高い。男性で 18.8％に対し、女性で 23.2％となっている。次に、世代を見ると、「宗教儀礼」で「青年層」10.0％、「壮年層」9.8％、「老年層」6.3％となっており、世代が若いほど将来アイヌ文化を体験したい者が増えている。ただ、世代に関しては、アイヌ文化への選好の違いというよりも、老年世代ほどアイヌ文化に限らず年齢のために新しい事柄にチャレンジしたいとは思わないために、上記の傾向が見られる可能性がある点には留意しよう。

こうした性別・世代別、さらに学歴別の違いは、地域ごとに見ても確認できるのだろうか。引き続き表８－ 22 を見よう。そこからは、まず伊達市において全体的な動向と同じ傾向が見られることがわかる。しかし、他の地域を見ると、全体的な動向と同様の傾向は見られない。たとえば、性

別は伊達市以外で有意な違いが見られない。世代を見ると、札幌市における「宗教儀礼」に関して、学歴を見ると新ひだか町の「生活文化」に関してのみ、全体的な動向と同様の知見が得られる。このことは、伊達市以外の４つの地域では、性別・世代別・学歴別の相違がそれほどには見られないことを意味しよう。こうした点、とくに学歴の違いは、将来体験したいアイヌ文化に関して、地域内の相違ではなく、地域間の相違をもたらしている可能性を示唆しているのかもしれない。

表８－23　将来体験したいアイヌ文化（地域別文化類型別）

		将来体験したい宗教儀礼	
		割合	回答者計
新ひだか町	宗教儀礼なし	3.8%	290
	宗教儀礼知識	3.8%	78
	宗教儀礼体験	23.3%	30
	合計	5.3%	398
	宗教儀礼なし	－2.169	
	宗教儀礼知識	－0.63	
	宗教儀礼体験	4.601	
		p=0.000	

		将来体験したい生活文化	
		割合	回答者計
新ひだか町	生活文化なし	10.7%	244
	生活文化知識	10.1%	119
	生活文化体験	45.7%	35
	合計	13.6%	398
	生活文化なし	－2.135	
	生活文化知識	－1.325	
	生活文化体験	5.815	
		p=0.000	

		割合	回答者計
伊達市	宗教儀礼なし	7.3%	396
	宗教儀礼知識	8.2%	61
	宗教儀礼体験	35.3%	17
	合計	8.4%	474
	宗教儀礼なし	－1.969	
	宗教儀礼知識	－0.073	
	宗教儀礼体験	4.057	
		p=0.000	

		割合	回答者計
伊達市	生活文化なし	17.3%	307
	生活文化知識	18.6%	118
	生活文化体験	38.8%	49
	合計	19.8%	474
	生活文化なし	－1.901	
	生活文化知識	－0.373	
	生活文化体験	3.512	
		p=0.002	

		割合	回答者計
白糠町	宗教儀礼なし	2.9%	275
	宗教儀礼知識	12.5%	56
	宗教儀礼体験	18.8%	16
	合計	5.2%	347
	宗教儀礼なし	－3.74	
	宗教儀礼知識	2.695	
	宗教儀礼体験	2.505	
		p=0.001	

		割合	回答者計
白糠町	生活文化なし	8.6%	210
	生活文化知識	19.2%	99
	生活文化体験	39.5%	38
	合計	15.0%	347
	生活文化なし	－4.144	
	生活文化知識	1.387	
	生活文化体験	4.482	
		p=0.000	

		割合	回答者計
札幌市	宗教儀礼なし	13.9%	403
	宗教儀礼知識	11.4%	79
	宗教儀礼体験	50.0%	8
	合計	14.1%	490
	宗教儀礼なし	－0.255	
	宗教儀礼知識	－0.75	
	宗教儀礼体験	2.945	
		p=0.011	

		割合	回答者計
札幌市	生活文化なし	25.9%	220
	生活文化知識	31.2%	186
	生活文化体験	57.1%	84
	合計	33.3%	490
	生活文化なし	－3.12	
	生活文化知識	－0.765	
	生活文化体験	5.103	
		p=0.000	

		割合	回答者計
むかわ町	宗教儀礼なし	4.9%	307
	宗教儀礼知識	7.8%	103
	宗教儀礼体験	32.0%	25
	合計	7.1%	435
	宗教儀礼なし	－2.813	
	宗教儀礼知識	0.289	
	宗教儀礼体験	4.979	
		p=0.000	

		割合	回答者計
むかわ町	生活文化なし	9.5%	242
	生活文化知識	27.4%	146
	生活文化体験	57.4%	47
	合計	20.7%	435
	生活文化なし	－6.449	
	生活文化知識	2.455	
	生活文化体験	6.587	
		p=0.000	

		割合	回答者計
合計	宗教儀礼なし	7.1%	1671
	宗教儀礼知識	8.5%	377
	宗教儀礼体験	29.2%	96
	合計	8.3%	2144
	宗教儀礼なし	−3.862	
	宗教儀礼知識	0.108	
	宗教儀礼体験	7.545	

p=0.000

		割合	回答者計
合計	生活文化なし	14.5%	1223
	生活文化知識	22.6%	668
	生活文化体験	49.4%	253
	合計	21.1%	2144
	生活文化なし	−8.7	
	生活文化知識	1.126	
	生活文化体験	11.732	

p=0.000

では、他方で、アイヌ文化の知識や体験のあり方と将来体験したいアイヌ文化との関連は、地域ごとに見ても確認することができるのだろうか。表８－23を見よう。それによれば、いずれの地域においても、アイヌ文化の知識や体験があるほど、将来アイヌ文化を体験したいと考えていることがわかる。たとえば、白糠町を例にすると、「宗教儀礼」に関して、宗教儀礼に関する知識や体験がない「宗教儀礼なし」で2.9%、「宗教儀礼」の知識はある「宗教儀礼知識」で12.5%、「宗教儀礼」の体験がある「宗教儀礼体験」で18.8%となっている。また「生活文化」に関しては「生活文化なし」8.6%、「生活文化知識」で19.2%、「生活文化体験」で39.5%となっている。このように見れば、これまでのアイヌ文化の知識と体験のあり方は、いずれの地域においても、将来のアイヌ文化への関わり方に影響を与えると考えられよう。

おわりに

以上、アイヌ多住地域における和人住民のアイヌ文化の知識と体験について検討してきた。

そこからは、第１に、アイヌ文化の知識と体験に関して、（１）その知識は半数程度の和人住民が持っているものの、実際にアイヌ文化を体験した者は２割を下回る程度であった。アイヌ文化のうちカムイノミ等の宗教儀礼的な側面はとりわけ低く、実際に体験したことがある者は１割にも満たなかった。

また、（２）こうしたアイヌ文化の知識と体験のあり方には、地域的な相違が見られた。札幌市では、宗教儀礼的な知識体験が少ないものの、生活文化的な知識体験が多く、その結果、５つの地域で最もアイヌ文化の知識と体験を得ていた。新ひだか町とむかわ町では、現在カムイノミが行われている等の地域的な特色を反映し、宗教儀礼的な知識体験を相対的に多くしていた。白糠町では、祭りやアイヌ文化の保存を目的とする団体の存在等を背景に、５つの地域においては平均的な位置を占めていた。伊達市では、同化が早く進み、さらにアイヌの人々の居住地域がほぼ有珠地域に限定されていた点から、地域レベルでの取り組みがそれほど明示的ではなく、その結果、アイヌ文化の知識と体験が少なかった。

次に、第２に、（１）アイヌ文化の情報源を見ると、アイヌ文化に関する施設や展示物、さらに情報メディアが、和人住民の主要な情報源となっていた。その意味で、和人住民は、広く「公開」された経路からアイヌ文化の情報を得ている。他方で、家族や親戚、近所の人、友人などの「インフォーマル」な経路は、全体として見ればそれほど多くはなかった。

ただ、（２）アイヌ文化の情報源には、地域によって特徴が見られた。それは、アイヌ文化の知識と体験のあり方に対応していた。札幌市では、施設や展示物、情報メディアなどの「公開」された経路や、学校教育が特徴的な情報源だった。新ひだか町とむかわ町では、相対的に家族や親戚、

近所、友人などの「インフォーマル」な経路を通じて、アイヌ文化の情報を得ていた。白糠町では、アイヌ文化を普及している団体が相対的に見て情報源となっていた。伊達市では、他の地域と比べると特徴的な情報源が見られなかった。

また、（３）学校教育を通じてアイヌの歴史の学習やアイヌの文化の体験をした者はそれほど多くはなかった。だが、世代別に見ると、若い世代ほど学校教育を通じてアイヌの歴史や文化に触れていた。その意味で、和人住民におけるアイヌ文化の体験のあり方に関して学校教育が持つ意味合いが増している。しかし、学校教育におけるアイヌ文化の体験の程度には地域間で違いが見られた。しかも、学校教育を通じたアイヌの歴史やアイヌの文化は、印象に残らない場合も一定数見られた。その意味で、学校教育におけるアイヌの歴史の学習や文化体験の具体的なあり方には注意を向ける必要がある。とはいえ、学校教育におけるアイヌ文化の体験に関しては、踊りや楽器などの体験が多く見られ、また地域によって程度の違いは見られるものの若い世代でそうした体験は増えていた。

さらに、第３に、（１）和人住民のアイヌ文化の現状評価は、残っていると認識する者が３割、残っていないと認識する者が３割と、その意味で評価がわかれていた。また、２割以上の者が現状をわからないと評価してもいた。こうした現状評価には地域間の相対的な特徴もあった。アイヌ文化が色濃く残る新ひだか町、アイヌ文化を「まちづくり」の核の１つとした白糠町、アイヌの人たちが多く住んでいたむかわ町では、アイヌ文化が残っていると考えられていた。他方で、同化が早くすすみアイヌの人々の居住地が主に有珠に限定されていた伊達市、もともとアイヌの人々が少なかった札幌市では、アイヌ文化が残っていないと判断される傾向が見られた。なお、伊達市はアイヌ文化の知識と体験が最も少ない点を反映し、アイヌ文化の現状をわからないと回答しやすい傾向も見られる。

また、（２）アイヌ文化の残し方に関しては、日本の国として残すべきという見解が５つの地域いずれでも多数であった。ただし、アイヌ文化が残っていないと判断する伊達市や札幌市では、より強く日本の国として残すべきと考えられているのに対し、アイヌ文化が残っていると判断する新ひだか町・白糠町・むかわ町では、相対的に見てアイヌの人や地域ごとにアイヌ文化を残すべきと考えていた。とはいえ、こうしたアイヌ文化の残し方に関する考え方の背景には、アイヌ文化（の再興）は基本的にはアイヌの人々の問題であるという前提認識が存在していると考えられた。

この点を反映し、（３）将来アイヌ文化を体験したい者は１／４程度だった。ただし、そこにも地域間の違いが見られた。そうした違いは、アイヌ文化の知識体験の相違や学歴の相違が関連していた。そのため、将来アイヌ文化を体験したい者は、アイヌ文化の知識体験と学歴が高い札幌市で最も多く、アイヌ文化の知識体験が多いむかわ町、学歴が相対的に高い伊達市の順で多かった。その意味で、将来アイヌ文化の体験希望の地域的相違のあり方は、アイヌ文化の知識体験の地域的相違のあり方と、同様の側面があるものの独自の様相も帯びていた。

このように見ると、アイヌ多住地域における和人住民のアイヌ文化の知識と体験のあり方には、５つの地域に共通する特徴と、それぞれの地域に顕著に見られる特徴があることが浮き彫りとなる。たとえば、５つの地域において、アイヌ文化の主な情報源は施設や展示物・情報メディアであり、若い世代ほど学校教育を通じてアイヌ文化に触れ、アイヌ文化の知識や体験があるほど将来もアイヌ文化に関わりたいと考えていた。他方で、アイヌ文化の知識や体験の程度や具体的な内容は地域的な特色を背景にして異なっており、またそれに応じた形でアイヌ文化の情報源には相対的な特徴

が見られた。すなわち、「インフォーマル」な情報源をもとに宗教儀礼的な知識体験が多い新ひだか町とむかわ町、学校教育や「公開」された情報源を通じて生活文化的な知識体験が多い札幌市、アイヌ文化を普及している団体が特徴的な情報源となっている白糠町、特徴的な情報源が見られずそれゆえに知識体験が低い伊達市と、地域固有の特徴が見られた。その意味で、和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験には地域的な共通性と多様性が存在している。

ただ、アイヌ多住地域といえども、和人住民のアイヌ文化の体験はそれほど多くはなく、さらに将来アイヌ文化に関わりたいと考えている者もそれほど多くはないという点も強調されるべきかもしれない。たしかに、「『同化政策』の展開期」(「北海道旧土人保護法 1899（明治 32）年」～第二次大戦終了)、「エスニシティ潜在期」(第二次大戦終了～ 1960 年代後半)、「民族復権運動高揚期」(1960 年代後半～ 1992（平成４）年）という歴史的な段階（東村 1995）をふまえれば、和人住民のアイヌ文化を始めとしたアイヌの人々への関心は、同化や差別の対象という形ではなくなるという質的な変化をともないつつ高まりを見せていると評価できよう。その点で、「アイヌ文化振興法」を始めとしたアイヌ政策は大きな意味を持つ。しかし、「アイヌ文化振興法」が成立して 20 年近くが経過している点をふまえれば、和人住民のアイヌ文化への関心はさらに高まる余地があるのではないか。

このことを念頭においた場合、若い世代ほど学校教育を通じてアイヌ文化に触れてきている現実には焦点を向ける必要があろう。たしかに、学校で触れたアイヌの歴史や文化は印象に残らず忘れられる傾向が一定数見られる。だが、学校教育を通じて踊りや楽器などのアイヌ文化の体験をする者は着実に増えてきている。

和人住民は、５つの地域いずれにおいても、アイヌ文化の知識や体験があると将来体験したいアイヌ文化があると考える傾向にあった。その意味で、学校教育におけるアイヌ文化の知識と体験が契機[9)]となり、アイヌ文化に関心を寄せる和人住民が増える可能性は存在していると思われる。

ここで、注目すべきは、若い世代において学校教育を通じたアイヌ文化の体験には地域による違いが見られたことかもしれない。そこからは、地域による取り組みの違いがアイヌ文化の体験の相違をもたらす可能性が示唆されるからである。若い世代において学校を通じたアイヌ文化の体験が多い白糠町における「アイヌ文化出前講座」の実践は、上山（2015a）でもふれたように、「アイヌ文化振興法」に基づき設置された「アイヌ文化財団」(公益財団法人アイヌ文化振興･研究推進機構)」が行う事業を活用することで行われている。

この点をふまえると、今後のアイヌ多住地域における和人住民のアイヌ文化への関わり方は地方自治体の取り組みや「アイヌ文化振興法」の「運用」のあり方によって大きく枠づけられていく可能性が高いといえるのではないだろうか。

注

1）文化項目ごとの分析結果は、上山（2015b：53）を参照のこと。なお、本章では、アイヌ文化を類型的に把握するために、アイヌ文化の知識（体験）があると回答したもののその具体的な文化項目（例「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」）に関して無回答の者等を除いて分析を行うので、本章と上山（2015b）での具体的な値は一致していない。

2）こうしたアイヌ文化の分類は、世良（2016）の「宗教儀礼」「伝承復興活動」という区分を参

考にした。

3）なお、白糠町のアイヌ文化の現状に関して詳しくは世良・小内（2015）を参照のこと。

4）学歴に関しては、義務教育（旧制高等小学校を含む）を「中学」、高校（旧制中学校・旧制高等女学校・師範学校を含む）を「高校」、それ以外を「大学など」にした。なお「その他」は除いた。

5）世代に関しては、20 ～ 39 歳を「青年層」、40 ～ 59 歳を「壮年層」、60 歳以上を「老年層」にした。

6）上山（2015b）に同様の表があるが、ここでは、アイヌ文化の知識（体験）があると回答したもののその具体的な文化項目（例「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」）に関して無回答の者等を除いているので（注 1 参照）、母数が異なる。

7）コード化の結果として、シャクシャインの戦いや同化や差別の歴史などを内容とするものを「差別、搾取、戦いの歴史」に、衣服・踊り・音楽・言語等に関する記述内容があるものを「生活様式、文化、習俗」に、「忘れた」「覚えてない」「思い出せない」「印象がない」等を「忘れた、覚えていない、印象なし」に、北海道の地名の語源がアイヌ語であること等地名に関する事柄に関する記述を「地名」に、資料館に行ったことなどに関する記述を「施設見学」に、知里真志保などの著名な人物に関する記述を「著名人物」に、それ以外を「その他」とした。

8）コード化の結果として、祭りなどに関する記述を「宗教儀礼」に、衣服・チセ・工芸・料理などに言及している記述を「衣服・チセ・工芸・料理」に、言語に関するものを「言葉」に、ムックリ・踊り・ユーカラなどに関しては「音楽・楽器・民話・踊り」に、「忘れた」等を「忘れた、覚えていない、印象なし」に、具体的な施設の名前は記載されているがどの文化か詳細がわからないものは「施設見学（内容不明）」に、それ以外を「その他」とした。

9）高等教育レベルでの取り組みについても注意を払う必要があろう。廣瀬（2014）では宇都宮大学の事例が紹介されている。また、就学前教育に関して、「アイヌ文化財団」は「普及啓発促進事業（平成 27 年度）」として、アイヌの伝統などを内容とした幼児向け絵本の募集・表彰、道内保育園などへの配布を行っている（「アイヌ文化財団」ホームページ）。

参考文献

東村岳史 , 1995,「アイヌ民族復権運動前史:「空白期」の理解をめぐって」『国際開発研究フォーラム』3 , 19－30.

廣瀬隆人 , 2014,「大学・高等学校におけるアイヌ民族に関する教育」日本社会教育学会年報編集委員会編『〈日本の社会教育第 58 集〉アイヌ民族・先住民族教育の現在』東洋館出版, 151－163.

小内透編著 , 2015,『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その 4　地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係―― 2014 年アイヌ民族多住地域住民調査報告書――』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.

札幌市 , 2010,『札幌市アイヌ施策推進計画』(http://www.city.sapporo.jp/shimin/ainushisaku/sakutei/documents/keikaku_honbun.pdf).

世良尚也 , 2016,『アイヌ多住地域におけるアイヌ文化実践の現状と未来――新ひだか町、伊達市、白糠町』北海道大学大学院教育学院修士論文

世良尚也・小内透 , 2015,「アイヌ文化の実践環境と文化の担い手」小内透編著『調査と社会理論・

研究報告書 33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室 , 83－98.
上野昌之 , 2014,「アイヌ民族教育に関する史的展開――アイヌ学習指導上の留意点として」日本社会教育学会年報編集委員会編『〈日本の社会教育第 58 集〉アイヌ民族・先住民族教育の現在』東洋館出版 , 36－49.
上山浩次郎 , 2013,「アイヌ文化の知識と体験」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書 30　新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室 , 113－135.
――――――, 2015a,「白糠町の和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書 33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室 , 171－196.
――――――, 2015b,「アイヌ文化の知識と体験――札幌市とむかわ町を対象にして」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告その 4　地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係―― 2014 年アイヌ民族多住地域住民調査報告書――』北海道大学アイヌ・先住民研究センター , 51－79.

インターネット資料

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構のホームページ
http://www.frpac.or.jp/

（上山浩次郎）